

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2024 年 3-4 月

「わたしたちの高い召し」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

はじめに

「これが審判の基準」

3

朝のマナ

「わたしたちの高い召し」

4

Our High Calling

力を得るための食事

「ブロッコリーのじゃがいもガレット」

68

レシピ

お話コーナー

「罪の代価 (I)」

70

聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2024年2月12日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on
page 4

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

これが審判の基準

人々の品性と生活が、全地の裁判官であられる神の前で調査され、各人が「そのしわざに応じ」て報られる（各時代の斗争闘下巻 210）

わたしたちの心が神のみかたちに似て新しくされ、神の愛が心のうちに植えつけられるならば、神の律法は日々の生活に実行されるのではないだろうか。愛の原則が心に植えつけられ、わたしたちの心が創造主である神のみかたちに似て新たにされるとき、はじめて「わたしの律法を彼らの心に与え、彼らの思いのうちに書きつけよう」（ヘブル 10:16）という新しい契約が成就されるのである。…「あなたがたが知っているのとおり、彼は罪をとり除くために現われたのであって、彼にはなんらの罪がない。すべて彼におるものは、罪を犯さない。すべて罪を犯す者は彼を見たこともなく知ったこともない者である」（ヨハネ第一 3:5,6）。これがほんとうの試験法である。もし、わたしたちがキリストにあり、神の愛がわたしたちの心に内住するならば、わたしたちの感情も、思想も、行動も、神のきよい律法に現わされた神のみ心に調和するようになる。「子たちよ。だれにも惑わされてはならない。彼が義人であると同様に、義を行なう者は義人である」（ヨハネ第一 3:7）。（キリストへの道 78-80）

キリストは、自ら律法に従うことによって、律法の不変性をあかしし、キリストの恵みによって、アダムとむすこ、娘はみな完全にそれに従うことができることを証明された。…そして、世界の終末に目を向けて、その時が来るまで律法はその權威を保ちつづけることを保証しておられる。…神のご性質にあずかる者とすることによって、人を天の律法の原則に調和させるのがイエスの使命であった。（祝福の山 61,62）

真理はただ…語られるだけでなく、生きられるべきである。…もし真理を知っている人々が機会の提示されるときにこの働きをつかみ、日々、自分の生活している近隣に愛と親切の行為を行っているならば、キリストが彼らの生活に現われる。…福音は生きた力をもって宣布される。それは想像や熱狂の結果ではなく、現実であることがわかるようになる。…

神の働きに携わる人々は、上からの祝福と知恵に依存しなければならない。真理の提示を力強いものとし、人の気質と習慣を変えるのは、聖霊であられる。…「聖霊もまた、わたしたちにあかしをして、『わたしが、それらの日の後、彼らに対して立てようとする契約はこれであると、主が言われる。わたしの律法を彼らの心に与え、彼らの思いのうちに書きつけよう』と言い、さらに、『もはや、彼らの罪と彼らの不法とを、思い出すことはしない』と述べている。（レビュ・アンド・ヴァルド 1903 年 6 月 2 日）

キリストは…ご自身の命を、存在全体を通して放散される。こうして罪人はあらたに生まれ、今後は奉仕を愛する命へと生まれる。彼は天の宮廷へと彼を連れて行く…諸原則を実行するのである。…彼には新しい品性の型が置かれる。（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1905 年 6 月 28 日）

わたしたちの高い召し

Our High Calling



キリスト、天に至るはしご

「時に彼は夢をみた。一つのはしごが地の上に立っていて、その頂は天に達し、神の使たちがそれを上り下りしているのを見た。」(創世記 28:12)

ヤコブに示されたこのはしごについて考えてみよう。……アダムの子は天と地の間のあらゆる交わりを断ち切った。彼らの神の律法に対する反逆の瞬間までは、天と地は自由に交わっていた。天と地は神が行き来できる道によってつながれていた。しかし、神の律法に対する反逆はこの道を破壊し、人は神から離された。……

天と地をつなぎ、神と人をつなぐすべての輪は壊れたかのように見えた。人は天をのぞくかもしれないがどのようにしてそれを獲得できようか。しかし、全地よ喜べ。神のみ子、罪のないお方、完全に服従されたお方が、失われた連絡を回復して自ら通路となり、失われた楽園を再び獲得するための道を備えて下さった。人間の身代りとなり保証人となられたキリストを通して、人間は神の律法を守れるようになった。人間は神への忠節を回復し、神は人間を受け入れられるようになった。キリストははしごである。「わたしをとおってはいる者は救われ、また出入りし、牧草にありつくであろう」(ヨハネ 10:9)。……

はしごは神と人間との交わりの媒体である。この神秘的なはしごを通して、ヤコブに福音が告げられた。はしごが地上からまっすぐに天の頂に達し、そのはしごの頂上に神の栄光が見られたように、キリストはご自分の神性によって無限の空間に達し、またみ父と一つであられた。はしごは、その頂が天にまで達していたにもかかわらず、その基は地上についていたように、キリストは神であられたにもかかわらず、その神性を人性でおおわれ、この世界において「人間の姿になられた」(ピリピ 2:7)。はしごは、もしその基が地についていなかったり、その頂きが天に届いていなかったりするならば、価値のないものである。

神は栄光のうちにはしごの頂きに現れ、同情をもって過ちの多い、罪深いヤコブをご覧になった。……み父が罪人をご覧になるのは、キリストを通してである。……壊れた輪は修理された。大路は、すべて重荷を負って苦勞している者が通るところにそってつくられた。彼らは天国に入り休みを見出すであろう。(原稿 13、1884 年)

3月2日

信仰の尊い宝

「恵みと平安とが、あなたがたに豊かに加わるように。命と信心とにかかわるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。それは、ご自身の栄光と徳とによって、わたしたちを召された方を知る知識によるのである。」
(ペテロ第二 1:2, 3)

「イエス・キリストの僕また使徒であるシモン・ペテロから、わたしたちの神と救い主イエス・キリストの義によってわたしたちを同じ尊い信仰を授かった人々へ。……またそれらのものによって尊く大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである」(ペテロ第二 1:1, 4)。

「同じ尊い信仰」……は真の信仰である。それは、実りのない信仰ではない。真に人を救う信仰は、計り知れない尊い価値のある宝である。それは、表面的なものではない。義人は信仰によって、真に霊的なキリストのような生涯を送る。進歩のはしごを一段ずつ向上させるものは信仰である。信仰は培わねばならない。信仰は人間と神を結ぶものである。

神のすべての戒めに服従する生活は、進歩の生活であり、絶えざる前進の生活である。選ばれた尊い者として、イエス・キリストの仲保の働きに対する理解を深めるならば、キリストの義を通して与えられる豊かな約束を見て、把握するであろう。彼らが聖なる恵みを受ければ受けるほど増加の計画にしたがって働くようになる。

「恵みと平安」は「神とわたしたちの主イエスとを知ることによって」増し加わる。ここにあらゆる霊的力の源があり、霊的命はキリストから来るので、信仰は絶えず働かせねばならない。神を知る知識は、魂が天の恵みを受ける唯一の通路であられるキリストを信じるように靈感を与える。神を知る知識によって、魂は高められ、高貴にされ、純粋にされて、栄光と徳を獲得する高さにまで引き上げられる。「命と信心とにかかわるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。」(原稿 13、1884 年)

徳と知識

「それだからあなたがたは力の限りをつくしてあなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を」(ペテロ第二 1:5)

「信仰に徳を加え」よ。退歩する者には約束が与えられていない。使徒はその証の中で、信者たちに恵みと清潔のうちに進んでいくよう奮起させたいと願っている。彼らはすでに真理に生きると告白しており、また尊い信仰の知識を持っており、そして神性にあずかる者とされた。しかし、もし彼らがそこで止まるならば、すでに得ている恵みも失ってしまうのである。……

「力の限りをつくして」はしごを神に向かって一步一步のぼってゆかなければ、平安と恵みと聖潔の働きを得ることはできない。主は、「狭い戸口からはいるように努めなさい」(ルカ 13:24)と言われる。信者の道ははしごの上の神によって示されている。もし彼が品性の徳、すなわち、主のすべてのご要求に従う服従によって得られるキリストの実際の知識を持たなければ、彼のあらゆる努力は空しくなる。信仰をもっている者は、その働きによって信仰を示すことに注意深くあらねばならない。……

「信仰に徳を加え、徳に知識を」—真理の知識はイエスのうちにあるそのままの真理を知る知識であり、偉大な救いの計画を知る知識である。神の戒めと律法に無知であることは、魂の言い訳にはならない。神のみ座のまわりで「わたしは真理を知らなかったのです。わたしは無知だったのです」とあえて嘆願しようとする者はいない。主は、そのみ言葉をわたしたちの導き手、また教師として与えておられるので、この天からの光のゆえに無知の言い訳はできないのである。……

真理は活動的な働く原則であり、心と生活を絶えず天へ向かって働くように形づくるものである。……上へ登る一步ごとに意志は新しい行動の活力を得てであろう。道徳的気品はキリストの思いと品性に、ますます似てくる。向上するクリスチャンは、人知をはるかに超えた恵みと愛を持つようになり、それはキリストの品性のうちに彼らの愛情を深めるからである。はしごの上にあらわされた神の栄光は、前進する登山者だけが味わうことができる。彼はつねにキリストがあらわしてくださるより高くより高尚な目標にひきつけられる。精神と身体のすべての機能が注ぎ込まねばならない。(原稿 13、1884 年)

3月4日

知識に節制を

「知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、」(ペテロ第二 1:6)

知識に節制を加えねばならない。「あなたがたは知らないのか。競技場で走る者は、みな走りはするが、賞を得る者はひとりだけである。あなたがたも、賞を得るように走りなさい。しかし、すべて競技をする者は、何ごとにも節制をする。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするのであるが、わたしたちは朽ちない冠を得るためにそうするのである。そこで、わたしは目標のはつきりしないような走り方をせず、空を打つような拳闘はしない。すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。」(コリント第 19:24～27)

競技者はその身体的訓練のためには、その最高の状態を保つために、喜んで訓練を受ける。彼らは食欲に負けることなく、絶えず自分自身を抑制し、どんな器官でもその最高の力を弱めたり減じたりするような食物はとらない。しかし、彼らは「空を打つような拳闘」をしているのである。その一方でクリスチャンは現実の戦いの最中にいる。競技に出る人々は、朽ちる月桂冠を求める。クリスチャンは、朽ちない不死の栄光の冠を目の前にしている。そして、この天の競技においては、すべての人に賞を得る余地が豊かに残されている。もし人がよく走るならば、すなわち自分を照らす光に従って行動し、自分の知っている限りを尽くして健康な状態に保ってきた能力を働かせる人は、だれ一人として失敗することがないのである。……

頭脳の力と身体の力と神経を弱くするあらゆる習慣と行動は、節制の後に来るもの、すなわち、忍耐のための訓練を無効にしてしまう。……

不節制な者、刺激性のものをを用いる者、すなわちビール、ぶどう酒、アルコール性飲料、茶、コーヒー、アヘン、たばこ、またその他の健康を害するものを用いる者は忍耐強い人になれない。だから節制はわたしたちが忍耐の美德を加える前に、わたしたちの足をしっかりと踏みしめねばならないはしごの一段である。食物において、衣類において、働きにおいて、定められた時間において、健康の訓練において、わたしたちは生活と健康に対する正しい関係に入るために、熱心な努力によって獲得する義務がある知識によって、それを統制しなければならない。(原稿 13、1884 年)

忍耐力の完全な働き

「あなたがたの知っているとおり、信仰が試されることによって、忍耐が生み出されるからである。だから、なんら欠点のない、完全な、でき上がった人となるように、その忍耐力を十分に働かせるがよい。」(ヤコブ 1:3、4)

使徒は、節制の恵みに成功するときに、忍耐を加えることができると述べている。試練の下にあって忍耐は、自分たち自身の魂とわたしたちが交わるまわりの人々を傷つけるようなことを言ったり、行ったりしないようにあなたを守る。試練をそのままにしておきなさい。もし、あなたが忍耐を養い、試みの時にあっても興奮せずに静かであるならば、試みはあなたをひどく傷つけることはないであろう。

……

わたしたちは、知識に加えられるものとして、忍耐の前に節制をもってきたところにペテロの知恵を認めることができる。これがすべての刺激物に対する食欲に勝利しなければならない強力な理由の一つである。なぜなら、このような刺激性のある物質の影響で神経が興奮し、実に多くの、また悲しむべき悪が行われているからである。……

クリスチャンは、節制に忍耐を加える必要がある。言葉や行為において、自分の良心や他人の感情を傷つけることをしないという固い原則と確固たる目的が必要である。一つのつぶやきもなく、不平をもらさない威厳をもって、非難と失望と損失と十字架を負うために、世の習慣を超越しなければならない。……短気で気難しい男女は、幸福になるということがどういうことであるかを本当にわかっていない。彼らがその唇に運ぶ杯はみな、あたかもにがよもぎのように苦く、彼らの道には荒い石といばらととげばかりであるように思われる。だが、彼らは節制に忍耐を加えねばならない。そのとき、彼らは侮辱を見ることも感じることもなくなる。

忍耐は十分に働かせねばならない。そうしないならば、なんら欠点のない、完全な、でき上がった人となることはできない。患難と苦悩はわたしたちに定められたものであるが、わたしたちはそれらをみな忍耐強く耐えるであろうか、それとも、つぶやくことによって、それをみな苦々しいものとするのであろうか。不純物が取り除かれるために、金は炉の中に入れられる。そうであれば、わたしたちは精錬してくださるお方の監視の下で忍耐強くあろうではないか。わたしたちは、悲しみと憂いの思いに沈みこむことを拒否しなければならない。そして、かえって神への静かな信頼を示し、キリストのゆえに試練に耐えることを神が許されたとき、それを喜びとして受けねばならないのである。(原稿 13、1884 年)

3月6日

忍耐に信心を

「からだの訓練は少しは益するところがあるが信心は、今の命と後の世の命とが約束されてあるので、万事に益となる。」(テモテ第 14:8)

節制に忍耐を加えたならば、わたしたちははしごをさらに一步のぼって、忍耐に信心を加える必要がある。これはまさに忍耐の自然な結果である。使徒パウロは「それだけではなく、患難をも喜んでい。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。」(ローマ 5:3、4)

ここにもまたさらに進んだ徳、すなわち信心がある。信心とは、イエス・キリストの品性の精神を受け、それに似たものになることである。神の聖なる理想にまでわたしたちを高めることは、神がわたしたちと交わられる目的の一つであり、救いの計画全体の目的である。……世界の墮落はわたしたちの感覚を盗みあらゆるところにある汚れた影響は、わたしたちを世俗的な水準にまで低下させ、わたしたちの感受性を盲目にし、願望を低下させ、良心を弱め、宗教的活動力をそぎ、低い性質に支配されるようにわたしたちを追いつ立てる。……

これらのものからわたしたちを離してくれるのは、尊いはしごである。目は、はしごの上の神に引きつけられ、その栄光から、上へのぼってきなさいという招きが聞こえて来る。心は引きつけられる。段階を一步一步、前に向かって踏みしめる。高くさらに高く登って行く。一段ごとに天の魅力は大きくなる。魂により高い、より清い望みが起こる。過去の生活の罪はうしろに捨て去る。真の幸福の源を毒し、良心に呵責を起こさせ、意志を弱くし墮落させ、よりよい衝動を抑制したすべてのものを、あえてはしごの上から見下ろそうともしなくなる。……

神のみ言葉の目的は、望みを与え……天に向かって絶えず増し加わる力をもって一步一步登るように導くことである……わたしたちは、神の恵みを受けることによって、神のご品性に似たものになって行く。……蠟(ろう)が印影をうつすように、魂は神の道徳のみ姿を受け、それを保つ。雲はそれ自体は黒いが、光に満たされるとき、純白に変るようにわたしたちが、神の輝きによって変えられ、それを満たすようになるであろう。(原稿 13、1884 年)

兄弟愛の徳

「信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加えなさい。」(ペテロ第二 1:7)

神の言葉は、すべての神の子らの上に置かれている。「あなたがたは皆、心をひとつにし、同情し合い、兄弟愛をもち、あわれみ深くあり、謙虚でありなさい」(ペテロ第一 3:8)。忍耐に信心が加えられない限り、人間は兄弟愛を示すことはできない。キリストはこの地上におけるお働きを通して、神の霊の恵みを人間に示された。この恵みとは、これが受け入れられるとき、誇りをいやしめ自分を高く評価しないように導き、かえってキリストが人間の魂のために無限の価を払われたので、神の御目から見て尊いものとなった兄弟たちを、高く評価し、このようにして、人間全体はその内側も外側も完全に形づくられるのである。人間が神の財産として評価されるとき、わたしたちはその人間に対して親切に、温和に、謙遜になるであろう。

イエス・キリストの宗教は、まことの天来の礼儀体系であり、習慣的な優しい気持ちや親切な態度を実際にあらわすように導くものである。信心を持っている者は、はしごを一段のぼって、この恵みをもあらわすであろう。はしごを高く登れば登るほど、神の恵みは彼の生活と感情と原則のうちにあらわされるであろう。彼は学ぶ者であって、いつも神に受け入れられる条件を学んでいる。そして、天の嗣業を獲得する唯一の方法は、品性においてキリストのようになることなのである。あわれみの計画全体は、気質の荒々しさを和らげ、態度における粗野なものは何でも洗練することである。内なる変化はおのずから行動にあらわれる。神の霊のあらゆる恵みは、秘められた力と共に働いて品性を改変する。キリストの宗教は決して意地悪で粗野で無作法な行動をあらわさない。礼儀は聖書の徳である。兄弟愛というこの恵みの徳は、キリストのご生涯を特徴づけていた。キリストがこの地上において示された礼儀のようなものは他になく、その価を評価しすぎるということはない。……

恵みに成長するとは、神が内に働いてくださることを熱心に外にあらわすことである。それは未来の栄光に対する熱心であり、天であがめられる精神をこの地上で働かせることである。(原稿 13、1884 年)

3月8日

最上段にある愛

「これら一切のものの上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帯である。」(コロサイ 3:14)

はしごの次の段階は愛である。「兄弟愛に愛を加えなさい。」神と隣人に対する愛は、人間の義務全体をなしている。兄弟愛なくしてわたしたちは神の愛の恵みを隣人に示すことはできない。

このはしごの最後の一段は、意志に新しい行動の源泉を与える。キリストは人知をはるかに超えた愛を提供される。この愛はわたしたちの人生と別個に存在する何ものかではなく、わたしたちの全存在を捕えるものである。クリスチャンが登りつつある天国は、この最高の恵みをもつ者によってのみ得られる。これは魂に充満する新しい愛情である。古いものは後に捨てられる。愛は大いなる支配の力を持っている。愛に導かれるとき、頭脳と霊のすべての力は支持を得る。神に対する愛と人に対する愛は、天国へのはっきりとした資格である。

だれ一人として神をこの上なく愛しながら、このお方の律法を一つでも犯すことはできない。キリストの品性の美しさにやわらげられ、服従し、またわたしたちに与えられた純粋で高尚な律法によって制御される心は、愛について学んだことを実行にうつし、謙遜な服従をもってただちにイエスに従うであろう。信仰の生きた力は、自ら愛の行動のうちにあらわされるであろう。

わたしたちが、純粋なまじりけのない愛をもっているというどんな証拠があるだろうか。神は標準、すなわちご自分の戒めをお立てになった。「わたしの戒めを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である。」(ヨハネ 14:21)。神の言葉がわたしたちの心に宿らねばならない。

わたしたちは、キリストがわたしたちを愛されたように兄弟を愛さねばならない。わたしたちは、忍耐強く親切でなければならないが、なお何ものかが欠けている。すなわちわたしたちは愛さねばならない。キリストは七たびを七十倍するまで許さねばならないと言われた。……多くゆるしがあるところには大きな愛がある。愛はかわいい植物である。それは、絶えず手入れされる必要がある。もしそうでなければ、しばんで枯死するであろう。

これらすべての恵みを持たねばならない。はしごを最後まで登らねばならない。(原稿 13、1884 年)

召しと選びとを確かにせよ

「これらのものがあなたがたに備わって、いよいよ豊かになるならば、わたしたちの主イエス・キリストを知る知識について、あなたがたは、怠る者、実を結ばない者となることはないであろう。」(ペテロ第二 1:8)

クリスチャンの唯一の安全は、足し算の計画に従ってたゆまず努力することである。使徒は、このようにすることによって得られる利益をわたしたちに示している。恵みに恵みを加えてゆく者の上に神は掛け算の計画を実行され、恵みはその宗教生活のうちにあふれ、彼は「怠る者、実を結ばない者」にならないであろう。これらのクリスチャンの恵みが豊かにある者は、ちょうど、ぶどうの木につながったぶどうの枝が木と同じ実を結ぶように、実際のキリスト教において慕うべき生き生きとした力の持ち主となり、義を実践する者となるであろう。

進歩のはしごを登らず、恵みに恵みを加えて行かない者は「盲人であり、近視の者である。わたしたちは主イエス・キリストの知識と恵みに成長せず、一段一段とはしごを登らない者ははしごの上から来る光を受ける所に自分がいないことに気づかないであろう。恵みに恵みを加えて行かない者は、彼の上に置かれている神のみ言葉を忘れ、神のご要求に対する服従を通して罪の許しを受けねばならないことを忘れている。……

「兄弟たちよ、それだから、ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選びとを、確かなものにしなさい」(ペテロ第二 1:10)。わたしたちは想像上の望みを必要とせず、確証を必要としている。わたしたちの受けた召しと選びとを確かなものにするために、聖書の計画に従い、自己を吟味し、わたしたちが本当に悔い改めているか否かを厳密にたずね、わたしたちの心が神と天のものに引きつけられているかどうか、わたしたちの意志は新しくなっているか、魂は全く変っているかを尋ねなければならない。わたしたちの召しと選びとを確かなものにするために多くの人がこの重要な問題に関して実行しているよりも、もっと偉大な勤勉さが要求される。「そうすれば」、すなわち足し算の計画に従って生活し、わたしたちの主また救主イエス・キリストの恵みと知識とにおいて、ますます豊かになるならば、あなたがたはヤコブの見たはしごを、一段一段とのぼり「決してあやまちに陥ることはない」であろう。(原稿 13、1884 年)

3月10日

はしごであるキリストにしっかりつかまる

「こうして、わたしたちの主また救主イエス・キリストの永遠の国に入る恵みが、あなたがたに豊かに与えられるからである。」(ペテロ第二 1:11)

わたしたちは、はしご—キリストのみ働きの完全な高さ—を一段一段のぼることによって、天に上るのである。キリストの功績によってのぼるとき、主にしっかりつかまっていなければならない。手ばなすことは、のぼるのをやめることであり、墮落であり、滅びである。わたしたちは仲保者によってのぼらなければならない。また、その間ずっと仲保者をしっかりつかまっていなければならない。一段一段順々にのぼっていき、一段つかんではまたその次の上の段へと手を延ばすのである。……一瞬でも、霊的な熱心な努力をゆるめることは、恐るべき危険である。なぜならば、わたしたちは天と地の中間に宙づりになっているからである。

わたしたちははしごの上におられる神に目をまっすぐに向けていなければならない。天を眺めている男女の質問は、どのようにしてわたしは祝福された者に与えられる住居を獲得することができようかということである。それは、神性にあずかることによってである。それは、「世にある欲のために滅びること」を免れることによってである。それは、イエスの血によって至聖所に入ることによるのであり、福音の中にあなたのために啓示されている望みをつかむことによるのである。それは、あなたをキリストにしっかり結びつけることによってであり、また全神経をはりつめてこの世を後ろに捨て去ることによってである。……それはキリストのうちに住み、キリストに導かれ、信じ、働き、……キリストにすがり、神に向かって絶えずのぼって行くことによって得られるのである。……

わたしたちは、キリストがご自分を愛するすべての者のために備えておられる住居をあなたがたに指し示す。土台のある都と、その建設者と造り主が神である都をあなたがたに指し示す。その巨大な城壁と十2の土台をあなたがたに示し、その城壁を測りなさいとあなたがたに言う。あなたがたは、自分の前にある働きのただならぬ大きさに落胆してながめるかもしれない。しかし、わたしたちはあなたがたに地上に据えられ、神の都に届いているはしごを指し示す。あなたの足をはしごの上に置きなさい。あなたがたの罪を捨てなさい。一步一步のぼりなさい。そうするならば、あなたがたははしごの上なる神の都に到達するであろう。……

順々に一段ずつのぼりきったとき、恵みが次々と加えられてきたとき、この上ない最高の恵みは、神の完全な愛—神に対する崇高な愛と隣人に対する無上の愛—である。そしてそのとき、神の王国に入る恵みが豊かに与えられるのである。(原稿 13、1884 年)

確証の特権

「それによって、わたしたちが真理から出たものであることがわかる。そして、神のみまえに心を安んじていよう。」(ヨハネ第一 3:19)

わたしは若い男女に召しと選びとを確かなものにする必要性を訴えたい。わたしはあなたが自分の永遠の事柄に対して中途半端で不確実なままの状態にとどまらないように願う。そうすることによってあなたは、現在の生活の幸福と平和と慰めと望みを失い、また不死の嗣業を失うであろう。わたしの年若い友よ、あなたはさばぎを受けねばならない。またキリストの恵みによって、あなたは、神の戒めに服従し、品性の堅固さと力を日ごとに得、失敗したり失望したりすることがないようになるであろう。戦いに加わる者が勝利するように、すべての魂のために聖なる恵みが豊かに備えられている。不活動になってはならない。あなたの性格の生来の傾向に従って歩んでいれば救われると考えたり、世の流れのままにただよったり、自己にふけり喜ばせたりしていながら、危機の時には悪の力に立ち向かい、戦いが激しくなっても首尾よく勝利できると思ったりしてむなしい希望をいだいてはならない。……あなたは日ごとに主の軍勢の隊長の命令に従うことを学ばねばならない。

若き友よ、あなたは祈っているだろうか。あなたは清純な思いと清い望みと清い心と汚れのない手のために祈りをささげるように、自分を教育しているだろうか。あなたは神への賛美を歌うために、あなたの唇を教育しているだろうか。また神のみ旨を行うことを求めているだろうか。

これはあなたにとって偉大なる価値のある教育であり、その教育はキリストのような品性を形づくる上に助けとなるであろう。(ユース・インストラクター 1895 年 11 月 7 日)

サタンの安楽いすに落ち着いていてもうだめだ、罪を止めることはできない、もうわたしには勝利する力がないと言ってはならない。キリストなくしては、あなたに力はないが、しかし信仰によってあなたの心にキリストに内住していただくことはあなたの特権である。そして、あなたがこのお方の努力と協力するとき、このお方はあなたのうちにある罪に勝利することがおできになる。……あなたは、すべての人に読まれ知られている生きた手紙になることができる。あなたは救うことがおできになるイエスを世にあかしするために死んだ手紙でなく生きた手紙にならねばならない。(ユース・インストラクター 1893 年 6 月 29 日)

3月12日

神に選ばれる

「わたしは地の果てから、あなたを連れてき、地のすみずみから、あなたを召して、あなたに言った、『あなたは、わたしのしもべ、わたしは、あなたを選んで捨てなかった』と。」(イザヤ 41:9)

多くの者は、信仰が何によって成り立っているかについて混乱しており、彼らはすべてその特権よりも低い生活を送っている。彼らは、感情と信仰を混同し、サタンが彼らの無知と未経験につけこんでくるので、絶えず彼らの思いは苦しみ困惑している……わたしたちは個人的救い主としてキリストを受け入れなければならない。そうでなければわたしたちは、試みにおいて勝利者になることができないのである。キリストから遠く離れたままで、自分たちの友人や隣人はこのお方を個人的な救い主とすることができるかもしれないが、わたしたちはこのお方の許しの愛を経験することはできないと信じて、わたしたちにとって問題の解決とはならない。わたしたちは、聖霊の働きとキリストの恵みを通し、信仰を働かせることによって救われるために神に選ばれた者であることを信じなければならない。そしてわたしたちは、主よりいさおなくして得た愛の驚くべきあらわれのゆえに、神を賛美し、神に栄光を帰さねばならない。魂をキリストに引き寄せるのは、神の愛であり、それによって魂は恵み深く受け入れられ、み父に差し出される。聖霊の働きを通して、神と罪人の神聖な関係が新しくされる。み父は、「わたしはあなたがたの神となり、また彼らはわたしの民となるであろう。わたしは許しの愛を彼らに注ぎ、わたしの喜びを彼らに与えるであろう。彼らがわたしの特選の宝となり、わたしのために選んだこの民を通してわたしは賛美されるであろう」と言われる。

人々の間に住む選民の上に、み父は愛を注がれる。この民のためにキリストは、ご自分の尊い血潮の価を身代金として払われ、彼らがキリストのもとに神の崇高な恵みを通して引き寄せられ、神の従順な子らとして救われるように選ばれた。彼らの上に神の豊かな恵みと彼らを愛する愛があらわされた。幼児のように自らへりくだる者、神の言葉を子供のような単純さで受け入れ者はだれでも、神の選民の中にいるのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893 年 1 月 2 日)

あなたは忠実であることによってキリストに選ばれた者であることをあかしすることができる。あなたはぶどうの木に連なることによってキリストの選民であることを証明できるであろう。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1079)

キリストの贖いは十分である

「みまえにきよく傷のない者となるようにと、天地の造られる前から、キリストにあってわたしたちを選び、わたしたちに、イエス・キリストによって神の子たる身分を授けるようにと、み旨のよしとするところに従い、愛のうちにあらかじめ定めて下さったのである。」(エペソ 1:4、5)

天の会議において、不法を犯したにもかかわらず人間のために備えがなされた。それは人間がその不従順のうちに滅びることなく、キリストを自分の身代りとし、また保証人として信じる信仰によって、人間が神の選民となるためであった。……神はすべての人が救われるように望んでおられる。人の身代金を払うために、神のひとり子が与えられ、十分な備えがなされた。滅びる者は、キリスト・イエスを通して神の子となることを拒んだために滅びるのである。人間の誇りは、救いの備えを受け入れないよう妨害する。しかし人間の功績では、魂は神のみ前に出られないのである。人間を神に受け入れられる者とするものは、主のみ名による信仰を通して与えられるキリストの恵みである。働きとか、楽しい幸福感を神にその人が選ばれた確証として信頼することはできない。なぜなら選民は、キリストを通して選ばれるからである。

イエスは「わたしに来る者を決して拒みはしない」と言われた(ヨハネ 6:37)。悔い改めた罪人がイエスのみもとに来るとき、そして彼が、自分の罪と無価値さを感じ、自分が刑罰に値する罪人であることを認めるとき、そしてキリストのあわれみと愛にすがるとき、彼は決して捨てられることはない。神のゆるしの愛は感謝され、楽しみと喜びが心のうちにあふれ、救い主の無限の同情と愛によって満たされる。天の会議によって罪人のために天地の造られる前からなされた備えがなされたこと、すなわち、キリストが人間の罪の刑をご自身に受け、ご自身の義を人に着せるということは、彼を驚きをもって圧倒するのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893 年 1 月 2 日)

み父はわたしたちの罪をご自身以外だれの目も届かない所へおかれる。そして、罪なきキリストから、そのみ顔を隠されたように信じる罪人の罪から、その御目をそらされるのである。なぜならば、彼に義が着せられたからである。わたしたちに与えられたキリストの義は、わたしたちを人生の最も尊い祝福に導き、神の国の永遠の命を与える。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1898 年 12 月 8 日)

3月14日

神はわたしたちの最高の愛情を 要求なさる

「だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。」(マタイ 6:24)

多くの者は、誘惑的な敵の陣地に立っている。もっとも価値のないこと、すなわち愚かな社交のパーティー、歌、冗談、しゃれなどが彼らの頭を占領し、彼らは神に分割された心で仕えている。……「ふたりの主人に兼ね仕えることはできない」とのキリストの宣言は注意されていない。(原稿 38、1890 年)

ノアの時代の地の住民の最も大いなる特徴は、世俗に対する熱心さであった。彼らは食べること、飲むこと、買うこと、売ること、めとること、とつぐことを人生の最高の目的としていた。食飲は、もしそれ自体律法にかなったことをやり過ぎなければ、罪ではなく、義務を果たすことである。……神ご自身がアダムにエバをお与えになったとき、結婚の制度をお定めになった。神の律法はすべて人間の性質に驚くほどよく適応している。洪水前の罪はそれ自身は律法にかなっているものを悪用したところにある。彼らは、神の賜物を利己的な欲望のために用いることによって、腐敗させてしまった。……

それ自体は律法にかなったものであっても、過度に愛し、傾倒することによって、幾千幾万の魂が破滅してきた。ことごとく神にさざげられるべき知性の力が、あまり重要でない事柄のために用いられている。わたしたちは、正しく用いられるならば律法にかなっていることをやりすぎることに対して絶えず警戒する必要がある。それらのものは、正しく管理するならば、何の害もないものであるのに、それをゆがめ、間違つて適用すると罪となり、不道德なものとなるのである。(原稿 24、1891 年)

わたしたちは絶えず、この世の生活に属するものについて考え、それに対して努力するならば、天のものに対して思いを固定することはできない。サタンは、わたしたちの心を神から離すことを求め、病氣と死をもたらす世の流行、習慣、要求などに心を集中するように努力している。……

この世においてわたしたちは、高い世界に対する適応性を獲得しなければならない。神はわたしたちに信頼を置き、わたしたちがすべての能力を用いて隣人を助け、祝福するように期待しておられる。神はわたしたちの最上の愛情と、最高の力を求めておられる。(原稿 29、1886 年)

どちらの将か

「これこそ神であり、世々かぎりなくわれらの神であって、とこしえにわれらを導かれるであろう。」(詩篇 48:14)

わたしたちは2人の大いなる将のいずれかの下にいる。ひとり人間と世界の創造主であられ、すべてにまさって偉大なお方である。すべての者は、その全身全霊をもって忠誠を尽くし、すべての愛情を神にささげねばならない。もし心が神にささげられて、神の支配下におかれ、神がその頭脳の力を形づくり発達されるならば、すべての知恵とすべての力の源であられるお方から日ごとに新しい道徳の力が与えられるであろう。心が天に向けられているすべての人の努力は、道徳的祝福と聖なる美しさによって報われるであろう。わたしたちは、この世の狭い視野を越えたかなたにある啓示、すなわち天の美しさを把握することができる。それは、最も偉大な思いの想像力を越えて輝くであろう。……

サタンは世俗の指導者である。彼の最高の目的は、自分の旗の下に、世の大多数を集め、人数によって義と永遠の真理の力に対抗することである。タラントと能力は神から与えられたものであり、神の奉仕のためにささげるべきであるが、しかし神の政府に対する大いなる反逆者の足下に置かれている。……

世の賢者が、表面をすくいとり、視力や感覚でとらえるとき、その一方で神を恐れ敬う者は永遠にまで達し、最も奥深いところまで見通し、永遠に続く知識と富を集めるであろう。義と誉れと愛と真理は、神のみ座の特質である。それらはこのお方の統治の原則である。……これらのものは、現在もまた永遠にいたるまで求められ、賞賛されるべき宝石である。……

道徳力の色あせていない純潔な人となって、真理の聖なる原則をあなたの心にいだいて世を歩むならば、その影響はあなたの生活の行動に見られるようになる。まもなく神の報復の正義の火によって道徳的な堕落が清められる世の卑劣や虚偽や不正直によって堕落することなく生きることは、記録が天において不滅なものとなる人、道徳的な価値に重きをおき、それを評価する純潔な天使たちのあいだで誉れを受ける人になるということである。これが神の人となるということである。(手紙 41、1877年)

3月16日

わたしたちの悲しみの原因

「あなたがたの中に、罪の惑わしに陥って、心をかたくなにする者がないように『きょう』といううちに、日々、互に励まし合いなさい。」(ヘブル 3:13)

「罪の惑わし」ということばに注意しよう。サタンはいつもその誘惑を善の仮面をつけてもってくる。それらに惑わされないように気をつけねばならない。真理のまっすぐな道から一つそれることは、次の違反の準備となり、誤りは繰り返され、ついには不信仰の心が頑なになり、良心はその感覚を失うことになる。(原稿 9、1903 年)

だれも自分自身にへつらって、自分たちの若いときの罪はじきにたやすく捨てることができると考えてはならない。それは間違いである。すべての心の中で大事にされる罪は、品性を弱くし、習慣を強くし、その結果として身体的に知的に道徳的に低下してしまう。あなたは、あなたのした悪いことを悔い改め、自分の足を正しい道に置こうとする。しかし、あなたの思いの性質やあなたがなれ親しんできた悪のために、善悪を見分けるのが困難になってしまう。あなたがつちかってきた悪い習慣を通して、あなたはサタンにくり返し攻撃されるであろう。(原稿 127、1899 年)

多くの者は……罪を小さいものとみなしている。……多くの者は自分の望みと願望を勧告とし、自分の傾向に従い、ついには罪はそんなにひどく不快なものではなく、神の御目から見てそんなに恐ろしく、忌まわしいものではないという結論に達する。罪は小さいものに見え、にぶい良心によって小さなものと考えられるかも知れないが、神の御目から見ると、悲しむべきことであり、それを洗い流すことができるのは、神のひとり子であるみ子の血のみである。この事実は、罪の真の評価をするものである。神はわたしたちの考えと見解に合わせるために御自身の栄光を汚すことは決してなさらないであろう。わたしたちが神の考えと見解に合わせねばならない。神の尊さに比較して罪の性質は憎むべきものである。……

神はわたしたちの真の幸福を望んでおられる。もし、幸福に至る道を何かがふさいでいるならば、神はまず最初にそれを取り除こうと考えられる。神はわたしたちの目的を妨げられ、わたしたちの期待を失望に変えられ、失望と試練を通してわたしたちの真の姿を明らかにしてくださる。……罪はわたしたちのすべての苦悩の原因である。もしわたしたちが、真の平和と心に幸福を持ちたいと願うならば、罪を取り除かねばならない。(手紙 29、1879 年)

自分に頼らず神に求める

「わたしは自分の罪をあなたに知らせ、自分の不義を隠さなかった。わたしは言った、『わたしのとがを主に告白しよう』と。その時あなたはわたしの犯した罪をゆるされた。」(詩篇 32:5)

ダビデは、しばしば神によって勝利したが、しかし自分の無価値と罪深さについて深く考えた。彼の良心は眠ったり死んだりしていなかった。「わたしの罪はいつもわたしの前にあります」(詩篇 51:3)。彼は罪に何の関係もないと自分にへつらうことをしなかった。彼は、自分の心の偽りの深さを認め……神がひそかなることがより清めて下さることを祈った。

わたしたちの目を閉じ、良心を頑なにしておぼろげにわたしたちの罪を見ず、また悟ろうとしないのは、わたしたちにとって安全なことではない。(SDA バイブル・コメント [E・G・コッポ・コメント] 3 巻 1147)

へりくだった心は告白が自分に価値がないとは思えない。彼はもし何らかの方法によって、例えば心の思いであつても彼のゆえに神の働きが妨げられ、兄弟が傷つけられたならば、告白を不名誉なこととは思えない。(原稿 23、1899 年)

悔い改めていない罪はゆるされない。全然罪と感じていない罪を、また魂に悔い改めを感じていない罪を許されていると考えるのは、自分をだましているに過ぎない。……わたしたちの力は弱さを自覚することにある。……自己に信頼せず、わたしたちは神に助けを叫び求め、恐れおののいて救いの達成に努めるのである。肉の腕に対するいっさいの信頼を投げ捨て、イエスにしっかりすがりついていなければならない。……

天国は、クリスチャンであると単に告白するだけの安易な道を歩く人々には、とうてい到達できないであろう。神はご自分に従う一人ひとりの側での、徹底的な働きをお求めになる。……

「決然たる自己否定によって、

絶えざる警戒によって、

熱心な祈りによって、

そして恵みの手段を一つ一つ勤勉にもちいることによって、

またわたしたちの贖い主イエス・キリストの助けによって、

わたしたちは勝利するのである。

天の憩いは疲れた者に

冠が勇士の額に。」(手紙 24、1888 年)

3月18日

ゆるしの十分な備え

「主は心の砕けた者に近く、魂の悔いぐずおれた者を救われる。」(詩篇 34:18)

あなたが間違いを犯したために、いつも有罪宣告の下にあると考えてはならない。また、その必要はない。……わたしたちは自分の罪を見て悲しみはじめ、わたしは間違ったことをした、わたしは全然確信がなく神に行くことができないと言うだろうか。「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、彼は真実で正しい方であるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちを清めて下さる」(ヨハネ第 11:9 欽定訳)と、聖書は言っているではないか。罪の恐ろしい性質を悟ることは良いことである。キリストがカルバリーで屈辱的な死を受けられたのは罪のためであった。わたしたちは罪が恐ろしいものであることを理解しなければならぬが、しかし、「あなたは罪を犯した、あなたは神の目的を受ける権利がない」という敵の言葉に耳を傾けてはならない。あなたは敵に『もし罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる』と書かれている」と言わねばならない(ヨハネ第一 2:1)。……

詩篇記者は「わたしは自分の罪をあなたに知らせ、自分の不義を隠さなかった。わたしは言った、『わたしのとがを主に告白しよう』と。その時あなたはわたしの犯した罪をゆるされた」と言っている(詩篇 32:5)。……わたしたちはこのような種類の経験を持たねばならない。(手紙 97, 1895 年)

ダビデは、魂の悔い改めと悔悟のうちに、神のみ前で自分の心をへりくだらせ、そして、神の許しの約束が成就すると信じたので、その罪がゆるされたのである。彼はその罪を告白し、悔い改め、そして再び改心させられた。ゆるしの確証の喜びのうちに「そのとがはゆるされ、その罪がおおい消される者は幸いである。主によって不義は負わされず、その霊に偽りのない人は幸いである」と叫んでいる(詩篇 32:1, 2)。祝福はゆるしを通して来る。ゆるしは告白し、悔い改めた罪が、大いなる罪を負われる方に負わされるという信仰を通して来る。このようにキリストを通してすべての祝福が来る。彼の死はわたしたちの罪のための贖いの犠牲であった。大いなる仲保者である彼を通して、わたしたちは神のあわれみと愛を受ける。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 3 巻 1146)

永遠のために建てる

「それでわたしのこれらの言葉を聞いて行う者を岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることはない。岩を土台としているからである。」(マタイ 7:24, 25)

品性建設は一生の仕事であり、永遠のための働きである。もしすべての者がこの事を自覚し、個人個人が自分の運命を永遠の命か、または永遠の滅びかに決定しつつあることを考え、それに目覚めるならば、何という変化が起ることであろう。この恩恵期間はどれほど違った用い方をされることであろう。……

品性建設において最も重要なことは、深く掘り下げ、あらゆるがらくたを取り除き、動かされない固い岩なるキリスト・イエスの上に、建設することである。基礎はしっかり据えられており、わたしたちはいかに建設するかを知るために知恵が必要である。……律法のうちに神は型を示された。そして、その型に従ってわたしたちは建設しなければならない。律法は大いなる義の標準である。律法は神の品性を代表しており、神の政府に対するわたしたちの忠誠の試金石である。

品性建設に成功するためには、徹底が必要である。偉大なる建設者の計画を実行したいという真剣な願いがなくてはならない。用いられる材木は頑丈でなければならない。不注意で信頼できないような働きは受け入れられない。それが建物を損なうからである。全存在をかけてこの働きに注力しなければならない。この働きは力とエネルギーを要するのであつて、重要でもない事柄に浪費するために蓄えを残してはならない。神なる働き手と協力し、断固とした人間の力がこの働きに注ぎ込まれなくてはならない。この世の習慣と格言と交わりを打ち破る熱心なたゆまない努力が必要である。深い考察と真剣な目的と堅固な高潔とが不可欠である。そこに怠慢があつてはならない。人生は聖なる委託物であり、一瞬一瞬が賢く活用されねばならない。

あなたは永遠のために建設中であることを覚えなさい。基礎が確かであるかどうか調べ、その後、しっかりと建設しなさい。たゆまない努力をもって、また同時に寛容と柔和と愛をもって建設しなさい。そうするならば、あなたの家はゆるがないで堅く建ち、誘惑の嵐がきても倒れないばかりでなく、世界をおおいつくす神の災いの圧倒的な洪水の時も倒れないであろう。(ユース・インストラクター 1903 年 2 月 19 日)

3月20日

誘惑にすぎを見せてはならない

「主を恐れることによって人は安心を得、その子らは逃れ場を得る。」(箴言 14:26)

神は、わたしたちが罪を告白し、神の前に心をへりくだらせるようにと要求される。しかし、それと同時にわたしたちは、信頼する者たちを見捨てられない優しいみ父として、神を信用すべきである。わたしたちのうちどれほど多くの人々が、信仰によらず目で見ることによって歩いているか、わたしたちは気づいていない。わたしたちは見えるものを信じるが、み言葉のうちにわたしたちに与えられた尊い約束を正しく評価しない。しかも、神の仰せになることに信頼しないことほど、決定的に神の名誉を傷つけるものはないのである。(レビュ・アノ・ヘアル 1884年4月8日)

一瞬たりともサタンの誘惑が自分の思いに調和すると考えてはならない。敵そのものであるかのようにそれらの誘惑に背を向けなさい。サタンの働きは魂を失望させることである。キリストの働きは信仰と望みをもって心を励ますことである。サタンは、わたしたちの確信をゆるがそうとしている。サタンは、わたしたちの希望が、偽ることのできないお方の確かで不変のみ言葉の上ではなく、むしろ誤った仮定の上に築かれているのだと語る。(原稿 31、1911年)

〔サタン〕が、本当に自分たちが神に導かれている民かどうか、またテストと実証によって大いなる日に立ち得るよう神が備えてくださっている民かどうか疑いをほのめかすとき、これこそ神の戒めを守り、イエスの信仰を持ちつづける残りの民であるという、神のみ言葉によるはっきりした証拠を提示することによって、その巧みなほのめかしに立ち向かえるよう準備していなさい。(レビュ・アノ・ヘアル 1884年4月8日)

十分に、謙遜に、無我の精神で、神に信頼しよう。わたしたちは神の小さい子らであって、神はそのようにわたしたちを扱っておられる。みそば近くにわたしたちが行くとき、神はあわれみ深くわたしたちを敵の攻撃から守って下さる。親を信頼する子供のように神を信頼する者を、このお方は決して裏切られない。神はへりくだって信頼する魂がご自分に近づくのをご覧になるとき、あわれみと愛をもって彼らに近づいてくださり、敵に対してその軍旗を高く掲げてくださる。「彼らに触れてはならない。彼らはわたしのものである。わたしは、たなごころにあなたを彫り刻んだ」と主は言われる。神は彼らのために働くご自分の力を信じる疑われない信仰を働かせるようにと彼らに教えておられる。「わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である」(ヨハネ第 15:4)。(手紙 5、1903年)

疑いの霧をこえて

「すべて主を待ち望む者よ、強くあれ、心を雄々しくせよ。」(詩篇 31:24)

長い経験を得たクリスチャンでさえも、最も恐ろしい疑いと迷いの攻撃を受けることがある。……あなたは、自分の場合このような試みではもう希望かないと考えてはならない。……神に望みを置き、神を信頼し、そのみ約束に頼りなさい。(手紙 52、1888 年)

サタンが疑いと不信を持って来たときは、心の戸を閉じなさい。あなたの目を閉じて、サタンの凶悪な裏側を考えないようにしなさい。永遠のものをながめられるところに向かって目を上げなさい。そうすればあなたは毎時間、力を得るのである。あなたの信仰の試みは黄金よりも尊い。……主の闘いをたたかうのに、あなたを勇敢な者とする。……

サタンは、自分につながるすべての者につながるのである。もし彼が宗教経験のある人々を得ることができれば、彼らはサタンの最も効果的な働き手となって、ちょうど同じ様な人に接し、彼らの魂を不信仰で包んでしまうのである。あなたは、自分の思いに、いかなる疑いも入ることを許してはならない。あなたは自分が負っている恐ろしい重荷について話すことによって、サタンを喜ばせてはならない。そうするたびに、彼の魂があなたを支配することができることや、またあなたが自分の贖い主であられるイエス・キリストを見失っていることを笑うのである。……

暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたを示さなければならない。わたしたちが光の中にとどまるのは、生きた信仰によってである。日ごとに光の中で喜ぶのも、また生きた信仰によるのである。わたしたちは、自分の疑いや試練について語ってはならない。なぜならば、それについて語る度ごとにそれは大きくなるからである。それについて語るたびに、サタンは勝利をおさめる。しかし、わたしたちが「わたしは自分の魂の守りを忠実な証人であられるこのお方にゆだねます」というならば、そのとき、わたしたちはあますことなく自らをキリストにささげたことを証するのである。そしてそのとき、神はわたしたちに光を与えてくださり、わたしたちはこのお方にあつて喜ぶのである。(原稿 17、1894 年)

神を愛する魂は、疑いの霧より高くのぼり、輝かしい、広い、生きた経験を得、キリストのような、柔和な者となる。彼の魂は神にあずけられ、キリストと共に神のうちに隠されるのである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 907)

3月22日

漸進的な悪の戦い

「試練を耐え忍ぶ人は、幸いである。それを忍びとおしたなら、神を愛する者たちに約束された命の冠を受けるであろう。」(ヤコブ 1:12)

試練から神の民をかばうことは神のご命令でもなければ、み旨でもない。……真理が心を所有するとき、クリスチャンは戦いに入れられる。……彼自身の家族の中に、あるいは彼自身の心の中にさえ、反対要素がある。神の自由な御霊だけが彼に勝利を保証できるのである。(原稿 59、1900 年)

試みに屈服しはじめることは、心が迷うことを許す罪であり、あなたの神に対する信頼と矛盾するものである。墮落したサタンは、いつも神を誤って表わし、禁じられている事柄に対して心を魅了する機会をねらっている。もし、できることであれば、彼は人間の心をこの世の事物に固く結びつけるであろう。サタンは感情を興奮させ、情欲をかき立て、あなたにとって良くないこの世の事物に、あなたの愛情を結びつけようとしている。しかし、感情と情欲を理性と良心の支配の下に服従させることは、あなたにとって良いことである。サタンはその思いを支配する勢力を失う。わたしたちが召されている働きは、自分たちの品性のうちにある霊的な悪に対して絶えず勝利していく働きである。生来の傾向は克服しなければならない。……食欲と情欲は征服されねばならない。そして、意志を完全にキリストの側におかなければならない。(ビュー・アンド・ワルド 1892 年 6 月 14 日)

わたしたちは、天の父に「わたしたちを試みに合わせないで……下さい」と祈るが、しかし、あまりにもしばしば誘惑の方に足が向くことから、わたしたちの足を守ることに失敗している。わたしたちは容易に負けてしまう誘惑から離れていなければならない。成功はキリストの恵みを通して、わたしたち自身によってもたらされる。わたしたちはわたしたちと他の人にとって多くの悲しみの原因となるつまずきの石を道からころがし出さねばならない。(原稿 124、1902 年)

誘惑と試練は、すべての人にやって来るが、しかし敵によって打ち負かされる必要は決してない。救い主はわたしたちのために勝利された。サタンは、難攻不落ではない。キリストはその後に誘惑されるであろうすべての魂を、いかに救うかを知るために試みを受けられた。誘惑は罪ではない。それに負けることが罪である。イエスに信頼する魂にとって、誘惑は勝利とさらに強い力を意味する。(原稿 113、1902 年)

サタンの策略を警戒しなさい

「そうするのは、サタンに欺かれることのないためである。わたしたちは、彼の策略を知らないわけではない。」(コリント第二 2:11)

サタンの計画と策略が、いたるところでわたしたちを誘っている。わたしたちはいつもサタンが変装してその誘惑の性質と動機をおおい隠して来ることを覚えていなければならない。彼は、光の衣をまとい、見たところでは、純潔な天使の衣をまとい、それがサタンであるとわたしたちに気づかれないような姿で来る。欺かれたいためには、彼の策略を十分に研究し、非常な注意を払う必要がある。(原稿 34、1897 年)

サタンは、悪天使をわたしたちのまわりに置いており、彼らは人間の思いを読むことができないので、人間の言葉と行動を細かく見守っている。サタンはどのようにしてあらわされた品性の弱点と欠陥を自分の利益のために用い、抵抗力の最も弱いところから誘惑を持って来る。サタンは悪い提案をし、世俗的な思いを入れるが、彼はそれによって魂が罪に陥り、とりこにされるであろうことを知っている。利己的な者、世的な者、食欲な者、誇る者、欠点をあばく者、悪口を言う者、一あやまちと品性の欠陥を大事にしているすべての人々に対してサタンは、自己放縱を示し、聖書が罪を宣告している道にその魂を導く。……

すべての種類の試みに対して救済策がある。わたしたちは、自分自身の有限な力で自己と自分の罪深い性質と戦うように取り残されているのではない。イエスは、強力な助けであり、決して失敗することのないささえである。……このような豊かな準備があるので、わたしたちはだれも失敗したり失望したりする必要はない。心を抑制し、横道にそれることを許してはならない。聖書を瞑想し、高貴な高尚な主題について考えるように心を訓練しなければならない。聖書の一部分または、一章全部でさえも覚えるならば、サタンが誘惑をもってきたときにそれを繰り返すことができる。イザヤ 58 章はこのような目的のためにふさわしいものである。神の霊の靈感によって与えられた制限と教訓によってあなたの魂の城壁をつくりなさい。サタンがあなたの心を世的な感覚的なものに向けさせようとするとき、「と書いてある」という言葉をもって、最も効果的に抵抗することができるのである。(ビュー・アソド・ハルド 1884 年 4 月 8 日)

3月24日

いかにしてサタンの力を打ち砕くか

「自由を得させるために、キリストはわたしたちを解放して下さったのである。だから、堅く立って、2度と奴隷のくびきにつながれてはならない。」(ガラテヤ 5:1)

一人の魂の悔い改めは、全天に言い尽せない喜びを送る。すべての立琴とすべての声が賛美の歌をうたう。それは、命の書にもう一つの名前がのせられたためであり、この墮落した道徳的な暗黒の世の中に輝くもう一つの光がともされたためである。またこの同じできごととは、墮落天使たちをろうばいさせ、神の律法に対抗して反逆する大いなる指導者に屈辱を与える。暗黒の君は、自分のものだと思っていた魂が、ちょうど狩人のわなから逃れる鳥のように、彼の支配下から逃れ、キリストを自分の避けどころとするのを見るとき、逃げた者を再びとらえようと凶悪な激しさに働く。(原稿 46 a、1886 年)

わたしたちは、真の改心の結果についてもっと深く考えねばならない。罪人は、その罪を悔い改めて告白するとき、ただゆるされるのみでなく、神の子、……神の世継ぎ、不死を受け継ぐキリストと共なる世継ぎとなるのである。……サタンの力は破られる。人間はキリストと聖なる一致をする。(手紙 63、1905 年)

誘惑者を打ち負かし、へびのかしらを砕くことなしに、……キリストのもとに獲得された魂は一つもない。これによって、敵の悪意はさらに大規模な活動へと駆り立てられる。……自分の餌食がなくなるのでサタンは恐れる。サタンは、まず惑わし、圧迫し、ついには迫害する。教えと聖書の真理の光を持って来る人々の教訓と模範によって譴責される悪人は魂の大いなる敵の代理者となり、清く狭い道から人々を離れさせ、神に対する忠誠心を人々から奪うように全力をつくす。

しかし、だれも不安に感じたり、恐れたりする必要はない。神の言葉は、もし原則に忠実であり、またもし神のすべてのご要求を信じ、それらに従うならば、彼らは王家の一員であり、天の王の子であると保証されている。確かに天の軍勢が彼らのために陣を敷いており、彼らはキリストの功績を通して勝利者となる。彼ら愛するキリストを通して、勝ち得てあまりがあるのである。(原稿 46 a、1886 年)

代理人によっては救われない

「ひとりびとり、自分の行いを検討してみるがよい。そうすれば、自分だけでは誇る事ができても、他の人には誇れなくなるであろう。」(ガラテヤ 6:4)

だれも代理人によって神に仕えることはできない。多くの人々は、この世にはキリストより強い者がいてその者に頼ることができると考えているかのようである。そして、ありのままでまっすぐキリストの許へいき、このお方に完全に献身する代りに、人間の助けを求めるのである。神は個人的な経験をわたしたちが持つように望んでおられる。……わたしはあなたの品性のために努力することができないし、あなたもわたしの品性のために努力することができない。(世界総会冊子 1901年4月23日)

福音は個人に関するものである。すべての人間は自分の魂を救うか失うかのどちらかである。各人は他とはちがう、はっきりとした個性をもっている。各人は、自分で罪を自覚し、自分で改心しなければならない。また、自分で真理を受け入れ、悔い改め、信じ、そして服従しなければならない。各人は自分で自分の意志を働かせ……各人は自分の行為によって神に明け渡さなければならないのである。(原稿 28、1898年)

主はわたしたちの個性がそこなわれることを望まれない。2人の人間が全く同じ嗜好や気質を持つことは、神のご目的ではない。すべての者は、自分特有の特徴を持っているが、それはくだかれるのではなく、キリストのようなかたちにしたがって訓練され、かたどられ、形成されるべきである。主は生まれつきの才能や能力を変えて、適切な水路にされる。神の与えられた能力を発達させ、また、それが神からきたものであることを認め、利己的な目的でなく……神の栄光と人の善のために用いるべきことを認めるならば、タラントや能力は更に発達するのである。(手紙 20、1894年)

すべての人に仕事を与えているのは、人ではなく、神である。これは個人の働きであり、聖なるみかたちにしたがって品性を形づくることである。ゆりはバラのようになろうと努力しない。花の形や果物にはそれぞれの特徴があり、その特別な相違は神から来るものである。……同じように神は人間に対してすべての人が同じ性格を持つようには計画されなかった。神の奉仕のために献身した生活は美しい個性を発達させるのである。(原稿 116、1898年)

3月26日

神の分とわたしの分

「わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いつそう従順でいて、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起こさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは、神のよしとされるところだからである。」(ピリピ 2:12、13)

「恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。」これは何を意味しているのだろうか。それは、日ごとに自分の人間としての努力と知恵を信用しないことである。あなたは、でたらめに話すことを恐れ、自分の衝動に従うことを恐れ、心の誇りと世に対する愛と肉の欲が、主イエスがわたしたちに与えようとしておられる恵みをしめだすことを恐れなければならない。(原稿 42、1890 年)

この聖句にあるように、人の働きは神なくして独立して存在するものではない。彼は聖なる共労者の力と恵みに全く頼らなければならない。多くの者はここで目標を失い、人は神の力なしに自分だけで働かねばならないと宣言する。それは、この聖句とは一致しない。他の者は、その願いを起こさせるのも、かつ実現に至らせるのも神であるから、人間はすべての義務から解放されていると論じる。人類の魂の救いは、意志の力が神の意志の力に従属することを要求していると、この聖句は述べているのである。……そして神のみ旨と神の方法に意志と方法向けようと、人間が目的をもって大きな決心をし、決定するとき、まさに最も困難で厳しい戦いが臨むのである。(手紙 135、1898 年)

この永遠の命のための大いなる争いのために、人間に役割が与えられている。彼は聖霊の働きに答えなければならない。暗黒の力を打ち破るには、争闘が要求される。しかし、人のうちに働く聖霊は、それを成し遂げることがおできになるし、また成し遂げてくださるのである。しかし、人間は怠惰のうちに救われる受身の器ではない。彼は不死のための戦いにおいて、あらゆる筋肉を用いるように召されている。しかし、あらゆる能力を与えて下さるのは神である。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1896 年 11 月 5 日)

ここに人の働きがあり、神の働きがある。……この 2 つの結合された力を通して人は勝利し、永遠の命の冠を受ける。……この働きにおいて、勝利者となることに成功し、永遠の命という尊い恩恵を得ることができるよう、彼は霊的な神経と筋肉を最大限に働かせるのである。(原稿 13、1888 年)

見えない力との戦い

「わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。」(エペソ 6:12)

主は悪天使の感化力に関してわたしたちの心を覚醒したいと望んでおられる。キリストは背教した敵のすべての攻撃に対抗する力を与えずには、わたしたちを脅かしている危険についてわたしたちに語られることはない。……天使たちは、聖天使も悪天使も、共に勝利をめざして努めているので、現在発揮しているすべての影響力を厳密に調べなければならない。(原稿 78、1905 年)

サタンはいつも欺き、誤って導くために目を覚ましている。彼は人間をそそのかすためにあらゆる魔法を用い、広い不服従の道に導く。彼は神が正しい道を指し示すために立てられた道標の代りに、偽りの文字を書き込んだしるしを残し、誤った感情をもって感覚を混乱させようと働いている。悪天使が天よりの光を隠しているため、天軍に、救いを受け継ぐべき人々に仕え、彼らを導き守り支配するように命令が与えられた。だれも遺伝による悪の傾向のために絶望する必要はない。神の霊が罪を悟らせるとき、間違った行為をしていた者は罪を悔い、告白し、捨てなければならない。正しい道に魂を導くために忠実な番兵がついている。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1120)

神の天使か、あるいは悪天使が人の思いを支配している。わたしたちの思いは神の支配に委ねられているか、さもなければ闇の権威の支配に渡されているのである。そして、わたしたちが、今日どこに立っているか—インマヌエルの血染の旗の下か、あるいは闇の権威の黒い旗の下か—を自問することは良いことである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1120)

神の民が、主に忠誠を尽くす限りは、彼らが生きた信仰をもってイエスにすぎる限りは、彼らは天使の保護の下にあり、サタンは手を出して彼らを破滅させたり、凶悪にふるまったりすることを許されない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1908 年 11 月 19 日)

神に帰る魂の上に優しい愛のおおいを広げることは、天使たちの最大の喜びである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 922)

3月28日

キリストの勝利の模範

「また、あなたの僕を引き止めて、故意の罪を犯さず、これに支配されることのないようにして下さい。そうすればわたしは過ちのない者となって大いなるとがを免れることができるでしょう。」(詩篇 19:13)

人が囲まれるような主だった大きな誘惑に主は荒野で遭遇し、勝利された。食欲と臆断と世に対してこのお方が勝利者となられたことは、わたしたちがいかにして勝利できるかを示している。サタンは、食欲をそそのかし、人々に臆断の罪を犯させるよう導くことによって、幾百万の人々を征服してきた。キリストに従っていると告白していながら、……ほとんど考えることもせずに、汚されずに連れ出すには奇跡を必要とするような誘惑の場面に飛び込む者が多くいる。瞑想と祈りは、彼らを守ったはずであった。そして、自ら身を置き、サタンを優勢にしてしまった危険な立場を避けるよう導いたはずであった。

神の約束は、危険の中に向こう見ずに突進したり、自然の法則を犯したり、神の与えられた思慮分別と判断力を無視しながら、なおわたしたちを守って下さると軽率に叫ぶためのものではない。これは真の信仰ではなく臆断である。……サタンは世の名誉と富と生活の楽しみとをもってわたしたちにやって来る。これらの誘惑は、あらゆる階級の人々に応じて多様であり、自分たちの創造主よりも自分に仕えるように神から彼らをひき離そうと誘うのである。「これらのものを皆あなたにあげましょう」とサタンはわたしたちにも言っている。「すべての金銭、土地、すべての力と名誉と富を皆あなたにあげましょう」とサタンは誘惑し、人は心を魅せられ欺かれ、気づかない間にサタンの破滅へと誘われる。もしわたしたちが心と生活をこの世にひたらせるならばサタンは満足する。

救い主は狡猾な敵に自ら勝利し、わたしたちがいかにして勝利するかを示された。主は聖書をもってサタンを撃退するようにと模範を残された。彼はご自身の神の力に頼ることもおできになったが、……しかし、それでは主の模範はわたしたちの役に立たなくなる。キリストは聖書のみをお用いになった。神のみ言葉を十分に研究し、これに従うことは非常に重要なことであって、そうするならば、緊急事態において、わたしたちは「あらゆる良いわざに対して十分な準備ができ」、特に狡猾な敵に立ち向かうための防壁を築くことができるのである。(手紙 a、1872 年)

高潔さをいかに維持するか

「このように、あなたがた自身も、罪に対して死んだ者であり、キリスト・イエスにあつて神に生きている者であることを、認むべきである。だから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配に委ねて、その情欲に従わせることをせず、」(ローマ 6:11、12)

ある人は罪をまったく軽い問題と考え、罪にふけること、またその結果について全然防御していない。……

もし、神が罪を軽く扱われ、また逃れの道を備え、罪を犯し続けてもその刑罰から免除されると考えるならば、あなたはサタンの恐ろしい欺瞞のもとにいる。エホバの義の律法に故意に反逆するならば、自分の魂をサタンの攻撃にさらすことになる。

あなたが高潔さの自覚を失うとき、あなたの魂はサタンの戦場になる。あなたは疑いと恐れのため、エネルギーが麻痺し、失望に追いこまれるであろう。……

誘惑は罪ではないことを覚えなさい。人間が置かれた環境によって試されたとしても、本当に自分の廉潔を保ちつづけ、誘惑に自分を委ねない限りはその魂は弱くなるものではない。あなた個人にとって命にかかわる最も重大な関心事は、あなた自身が守るものである。あなたの同意なしには、だれもあなたに害を及ぼすことはできない。サタンの企みと攻撃の矢に対して心を開かない限り、悪の軍勢はあなたを損なうことはできない。あなたが同意しない限りあなたの破滅は起り得ない。あなたの心に汚れがないならば、あなたを取り巻く汚れはあなたを汚染し、汚すことはできない。

永遠の命はわたしたちにとってすべてに値するか、あるいは何にも値しないかのいずれかである。自分たちが追い求めている物の価値にみあった強い願いをもって、忍耐強い努力と、うむことを知らない熱心を注ぎ出す人々だけが、神の命によって測られる命を得るのである。……

わたしたちの前には、アダムとエバの例がある。彼らの不法の結果から、わたしたちの魂一人ひとは、罪を避け、罪を憎むべきものとして忌み嫌うように導かれるべきである。そして、必ず罪がもたらす苦しみを考えて、神の戒めの最も小さい一部分からでも離れるよりは、すべてを失う方がよいと感じるように導かれるべきである。(手紙 14、1885 年)

3月30日

立ち向かうことに成功する

「そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば彼はあなたがたから逃げ去るであろう。」(ヤコブ4:7)

向こう見ずに危険の中に飛び込み、危険と危難の中に自分の身をおき、自らを誘惑にさらす人がある。そこから無傷で汚されずに出て来るには神の奇跡が必要である。このような僭越な行為は、主に喜ばれない。世の救い主に対してなされた宮の頂上から飛びおりなさいという誘惑は、断固として立ち向かわれ、退けられた。大敵は、保証として神の約束を引き合いに出し、キリストは約束の力にもとづいて安全にそうすることができると言った。イエスはこの誘惑に聖句をもって立ち向かわれた。「主なるあなたの神を試みてはならないとまた書いてある」と言われた(マタイ4:7)。同じ様にサタンは聖書を示しながら自分の意見を正当化し、神が行くように命じておられないところへわたしたちを行かせようとする。

神の尊い約束が与えられているのは、僭越な進路をとる人を力づけるためでもなければ、彼が不必要に危険に飛び込みながら頼るためでもない。……わたしたちは神の子としてクリスチャン品性を首尾一貫して守り続けねばならない。わたしたちは分別と用心と謙遜とを発揮し、囲いの外にいる人々に対して慎重な歩みを示さなければならない。どんな場合にも原則を放棄してはならない。

唯一の安全は悪魔にすきをみせないことである。なぜなら、悪魔のほのめかしと目的はいつもわたしたちを傷つけ、わたしたちが神に頼るのを邪魔するからである。サタンは自ら純潔な天使を装って、人々が彼の企みに気がつかないように巧妙な誘惑をもってやって来る。わたしたちが譲歩すればするほど、彼のわたしたちに対する欺瞞の力は強くなる。彼と討論し協議することは危険である。敵に好機を与えるならば、彼はさらに自分の権力を主張してくる。唯一の安全は僭越にさそう最初のそそのかしをきっぱりと拒否することである。神はサタンに立ち向かうために、キリストの功績を通して十分な恵みを与えて下さり、わたしたちを征服者となるようにされた。抵抗は成功である。「悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう」。抵抗は堅固で揺るがないものでなければならない。今日は抵抗しても、明日は譲るならば、得たものをすべて失うことになる。(ビュー・アソド・ヘラルド 1880年4月8日)

近づくほど安全である

「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう。罪人どもよ、手をきよめよ。2 心の者どもよ、心を清くせよ。」(ヤコブ 4:8)

「神に近づきなさい」。いかにしてであろうか。自らの心を人目にふれないところで熱心に調べ、子供のように心から謙遜に神にたより、イエスに弱点をすべていいあらし、罪を告白することによって神に近づくことができる。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 938)

わたしたちが神に近づき、その麗しさと憐れみを見るならば、必ず自分の欠点を自覚し、高きを望む願いに満たされるようになる。「そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう」。主は、兄弟に対して犯した悪を彼らに告白し、それからへりくだりと悔悟のうちにご自分の許にくる者に近づいてくださる。

自らの危険を感じる者は、聖霊を悲しませることがないように、そして聖霊が自分の一連の行動を喜んでおられないことを知って神から離れることがないように、警戒している。神に近づくことはどんなにかよい安全なことであろう。それによって罪が魂につくった傷をみ言葉から輝き出る清い光によっていやしていただくことができる。サタンは神のご臨在を憎み、恐れているので、神に近づけば近づくほど安全になる。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 937)

み言葉を読み、祈ることと、瞑想によって神に近づきなさい。神があなたに近づくとき、敵に対してあなたのために軍旗を高く掲げられる。敵はこの旗を乗り越えることができないから勇気を持ちなさい。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 937, 938)

もし、わたしたちが個人的に神に近づくならば、あなたはその結果を認めないであろうか。そのとき、わたしたちはお互いが近づいていることを認めることができないであろうか。わたしたちが神に近づき、同じ一つの十字架の下に来るならば、必ずわたしたちの心は共に完全な一致のうちにまぜあわせられ、キリストの「わたしがみ父と一つであるように一つとなるように」という祈りに答えるようになる。それゆえに、霊と理解と信仰においてわたしたちが一つとなり、神がみ子を通して栄光を受けられたように、わたしたちを通して栄光を受けられ、神がみ子を愛されたようにわたしたちを愛されるように求めるべきである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 937)

神を愛する魂は、神と絶えず交わることによって力を受けることを喜ぶ。神と語ることが魂の習慣となるとき、悪の力は滅ぼされる。なぜならばサタンは神に近くある魂の側にいることができないからである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 937)

4月1日

わたしのもとにきなさい

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」(マタイ 11:28)

この招きを聞く多くの者は休息を求めてため息をつきながらも、心に重荷をしっかりと抱きつつ起伏の多い道を押し進む。イエスは彼らを愛し、その力強いみ腕に彼らの重荷と彼ら自身をも抱きたいと切望しておられる。彼らから平安と休息を奪い去る恐れと半信半疑を取り除きたいと望んでおられる。しかし、そのためにまず彼らはイエスのみもとに行き、心の密かな苦悩を主に語らなければならない。……

時々わたしたちは自分の問題を人間の耳に注ぎこみ、わたしたちを助けることができない人々に自分の苦悩を告げて、悲しみの道を喜びと平安の道に変えることのおおきになるイエスにすべてを打ち明けることを怠る。……

主はわたしたちの友人となり、人生の険しい道を共に歩こうと申し出ておられる。主はわたしたちがわたしはあなたの神、主である。わたしと一緒に歩きなさい。そうするならばあなたの道を光で満たそう」と言われる。天の大能者であられるイエスは、重荷と弱さと心配ごとを持ってご自分のもとにくる者をご自身の友へと高めようと申し出ておられる。……

主のわたしたちに対する招きは、純潔で聖なる幸福な生活、すなわち平安と休息と自由と愛の生活への招き、また未来の不死の命という豊かな嗣業への招待である。……イエスと共に日々穏やかな、親密で幸福な歩みをすることはわたしたちの特権である。(サインズ・オブ・ザ・ダームズ 1887年3月17日)

あらゆる自己を義とする精神と利己的な観点による推論を捨て去るとき、休息を見出すことができる。完全に自己を服従させ、主の道を受け入れることが、主の愛のうちに完全な休息の秘訣である。……主があなたにせよと言われたことをそのままなし、神がなすと仰せになったことは必ずなされることを確信しなさい。……あなたは主のもとへ来るとき、あなたのすべての一時しのぎのやり方を放棄し、不信仰と自己を義とする精神を捨てているだろうか。弱くて無力な死ぬばかりのありのままでイエスの御許に来なさい。

約束の「休息」とは何であろうか。—これは神がまことであり、ご自分に来る者を決して失望させられないということを意識することである。神のゆるしは完全であり、無償であって、神が受け入れてくださるということは魂にとって休息、すなわち神の愛のうちに休息を意味するのである。(レビュ・アンド・ヘラルド 1899年4月25日)

休みなき者に休息を

「主なる神、イスラエルの聖者はこう言われた、『あなたがたは立ち返って、落ち着いているならば救われ、穏やかにして信頼しているならば力を得る。』」（イザヤ 30:15）

イエスは休みのない者、つぶやいている者、悩んでいる者、悲しんでいる者を招いておられる。（健康改革者 1871 年 12 月）

イエスはあなたを愛し、あなたの愛を求めておられる。主はあなたが滅びることがないようにと、その尊い命をあなたのためにお捧げになったことを、あなたが覚えているよう、望んでおられる。そしてこのお方はあなたにとって必要な時のいと近き助けである。ただイエスを仰ぎ見、どんな心配ごとでも困難でも、主に告げなさい。……このお方にあなたを助け、力づけ、祝福してくださるよう祈り求めなさい。そして、主があなたの祈りを必ず聞いてくださることを信じなさい。
.....

全天は深い関心を持ってあなたを見ている。キリストがそのために死なれた一人の魂は、全世界よりも価値がある。わたしはすべての青年男女が人間の魂の価値を認識できるように望んでいる。もし彼らが自身を、その罪深い汚れたままイエスにささげらば、彼らが罪深く汚れていても、あるがままでこのお方に自分自身をささげようと思うなら、彼らが自分を捧げるその瞬間、イエスは受け入れてくださり、主はへりくだって求める者の心にご自分の御霊を注いでくださる。御自分のもに來る者をこのお方は決して拒まれない。あなたは心を尽くしてイエスを愛することができる。そしてこのお方は決してあなたの愛と確信を失望させることはない。このお方の言葉は命であり、慰めであり、望みである。あなたのしなければいけないことは、ただイエスを見、掲げられた救い主イエスを仰ぎみることであることをサタンは知っている。傷つき打ち砕かれた魂は、イエスのうちにその傷のための乳香を見出すであろう。……

平安、変わらない平安が魂に流れ込む。なぜなら休息はイエス・キリストへの完全な服従のうちに見出されるからである。神のみ心に従う時、休息がある。あがない主の柔和でへりくだった足跡に従う弟子達は、世が与えることができない、また、取り去ることもできない休息を見出すであろう。「あなたは全き平安をもってころごしの堅固なものを守られる。彼はあなたに信頼しているからである」（イザヤ 26:3）（手紙 6、1893 年）

つねに神の尊い御子の生涯を特徴づけていた柔和とへりくだった思いを、主に真に従う者が持つとき、それらは彼らに満足と平和と幸福をもたらし、人為的な生活の奴隷状態から高める。（健康改革者 1871 年 12 月）

4月3日

わたしに学びなさい

「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。」(マタイ 11:29)

「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから……わたしに学びなさい」と聖なる教師は言われた。わたしたちは自己否定と勇気と忍耐と不屈の精神と、ゆるしの愛を学ばなければならない。……もしイエスを助け主として信じ、絶えず信仰の目を持ってまっすぐにイエスを仰いでいるならば、わたしたちは品性においてイエスに似た者になる。主はわたしたちの心に住まわれ、わたしたちはキリストのうちに住む。キリストの義を着せられて、わたしたちの命はキリストと共に神のうちに隠される。このお方はわたしたちの勧告者となってください。もし、信仰をもって主に求めるならば、このお方はわたしたちの理解力に悟りを与えてくださる。……キリストがお与えになった教訓は実践されるであろう。(原稿 21、1889 年)

模範であられるキリストが絶えず思いの目の前に置かれるとき、新しい習慣が形づくられ、強力な先天的また後天的傾向は抑制され、克服される。そして、自尊心は塵に伏させられ、古い思想の習慣は絶えず抵抗をうける。最高位を愛する心は、その真の卑劣な性質のまま姿をあらわすようになり、克服されるのである。(原稿 6、1892 年)

キリストがわたしたちのあらゆる思想と感情と愛情の中に混ぜ合わされなければならない。わたしたちがするようにとこのお方が与えておられる働きにおける、日常の奉仕の全く些細な事柄においてキリストが例示されなければならない。人間の理解に基づいて学び、世の格言に従う代りに、イエスの足もとに座って、そのみ言葉を熱心に飲み、主のことを学び、「主よ、あなたはわたしに何をおさせになるのですか」というならば、わたしたちの生まれつきの独立心と自己信頼と強い自己の意志は、子供のような従順で素直な精神に変わるであろう。わたしたちが神と正しい関係にある時、わたしたちを指導なさるキリストの權威と、わたしたちの質問をしない服従をこのお方が要求なさるのを認めるであろう。(手紙 186、1902 年)

自己が低くされるとき、イエス・キリストは高くされる。わたしたちの愛情はイエスに集中し、わたしたちの思想は天に強く引き寄せられる。キリストは必ず栄え、わたしは衰える。…わたしたちはイエスのご品性のあるわれを他の人々に反映することができるように、イエスのうちに宿っている徳を培う。(原稿 21、1889 年)

キリストのくびきを負う

「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11:30)

キリストと共にくびきを負うとは、失われた人類のために主と共にこのお方の苦しみや困難にあっても、共労者として働くことを意味する。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホイト・コメント] 5 巻 1092)

自制と服従のキリストのくびきを受ける時、あなたはそれが大いなる助けであることを発見するであろう。このくびきを負うことは、いつもあなたをキリストのそば近くにおらせ、主が重荷の最も重い部分を担って下さる。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホイト・コメント] 5 巻 1090)

くびきと十字架は同じことを表わす象徴—意志を神に明け渡すこと—である。くびきを負うと、有限な人間を神のいと子との親密な交わりで結びつける。十字架を負うと、魂から自我を切り捨て、人をキリストの重荷をいかにして負うかを学ぶところに置く。主のくびきを負わないで、あるいは主の十字架を取り上げ、このお方の後から担っていかない限りキリストに従うことはできない。もし、わたしたちの意志が聖なる要求に調和していないならば、わたしたちは自分の傾向を否定し、最も好んでいる望みをあきらめ、キリストの足跡を歩まねばならない。

.....

人間は自分の首に軽そうに見え、楽に担えそうなくびきをつくるが、しかし、それは非常に苦しいものであると分かる。キリストはそれをご存じで次のように言われる。「わたしのくびきを負いなさい。あなたが自分の首にびったりだと思って、あなたの首にかけるくびきは全く合わない。わたしのくびきを負ってあなたにどうしても必要な教訓をわたしから学びなさい。」(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホイト・コメント] 5 巻 1090、1091)

あなたの働きは、あなた自身の重荷を集めることではない。……わたしたちはしばしば重荷を負って困難な経験をしていると考えるが、ほとんどの場合、神はその重荷をわたしたちが担うようには計画しておられないのである。しかしわたしたちが主のくびきを負い、主の重荷を負うとき、キリストがそのために準備して下さっているので、このお方のくびきは負いやすく、その荷は軽いことをあかしすることができる。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホイト・コメント] 5 巻 1091)

しかし、くびきは、わたしたちに安楽で気ままな利己的な放縱の生活を与えるものではない。キリストの生涯はことごとくに自己犠牲と自己否定の生涯であった。だからこのお方に真に従う者は、一貫したキリストのようなやさしさと愛を持って、主なるお方の足跡に従って歩く。そしてこの世で前進するとき、ますますキリストの精神と生涯から靈感を受ける。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホイト・コメント] 5 巻 1092)

4月5日

キリストの学校で学ぶ

「主を恐れる人はだれか。主はその選ぶべき道をその人に教えられる。」(詩篇 25:12)

イエスはご自分が選ばれた者を教育し、訓練するために学校を開いておられるので、彼らはここでこのお方を完全を知ることができるために、この方がお与えになる教訓を絶えず実践するために常に学んでいなければならない。

自分はかなり良いと思い、クリスチャン品性の完全にむかって勤勉に働かない人々は、心の中に偶像を据え、罪が罪深く思えなくなるまで罪深い習慣を続ける。……

イエスは、罪の病にかかっている一人一人の魂のために、打ち勝とうともがいている一人一人の魂のために、ご自身をおさげになる。聖霊は、真剣に戦うあらゆる者のためにとりなしをしておられ、キリストはすべて信じる者にとってご自分のみ言葉が、霊となり、命となり、救いを得させる神の力となるようにして下さる。しかし、もし悪魔があなたの思いを支配し、あなたの想像力を導くことをあなたが許すなら、あなたは確実に敗北する。……神は侮られる方ではない。神は2心をお受け入れにはならない。完全な心からの奉仕を要求なさる。主はアダムのすべてのむすこ娘のために、ご自分の命を身代金として支払われた。……

キリストは、すべての魂をご自分のものであると宣言しておられる。しかし、多くの者は罪の生活を選ぶ。ある者は、イエスから命を受けるために、イエスの許に行こうともしない。ある者は、主の招きに対して「わたしは行きます」というが、行かない。彼らは命と平和と言いつつこのできない喜びと、栄光に満ち満ちたイエスだけの中に住むために、完全に捧げることをしない。……あなたは賢い者となり、永遠に備えて勤勉に働きをなすために、立ち上がらないのだろうか。心をつくし、力をつくし、思いをつくしてキリストの恵みを求めなさい。……

信仰の祈りを通してキリストを捕える特権を神はあなたに与えておられる。信仰の祈りは純粋な宗教の本質であり、あらゆるクリスチャンの力の秘訣である。……

祈るために、聖書研究のために、イエス・キリストの訓練のもとに自己を置くために時間をさきなさい。生きておられるキリストとつながって生活しなさい。あなたがこれをするや否や、このお方はあなたをしっかりと捕らえ、決して手離すことのない強い手であなたを強く捕えてくださる。(手紙 38、1893 年)

より高い学校に入る準備

「あなたのまことをもって、わたしを導き、わたしを教えて下さい。あなたはわが救いの神です。わたしはひねもすあなたを待ち望みます。」(詩篇 25:5)

この世において神の子供となる人々は、より高い学校に受け入れていただくために準備をしつつ、小学校でキリストと共に座る。日ごとにわたしたちは個人的準備をしているべきである。なぜならだれも天の法廷に代理を送ることはできないからである。一人ひとりが自分のために「わたしのものにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」との召しに聞き従わなければならない。

主イエスはあなたの授業料を支払われた。あなたのしなければならないことは、ただこのお方に学ぶことである。上級の学校において実践されねばならないキリストのような礼儀は初級の学校においても老人も青年も共に実践しなければならない。キリストの学校で学ぶ者はすべて天の機関の訓練を受ける者である。彼らは世界にも天使にも人にも見られているということを決して忘れてはならない

彼らはキリストを現さなければならない。彼らはより高い学校に入る資格を得るために互いに助け合わねばならない。彼らは神の子になるということが何を意味しているかについて真の見解を持ち、純粹で高貴になるようにお互いに助け合わなければならない。彼らは励ましの言葉を語るべきである。彼らは弱い手をもたげ、弱いひざを強くしなければならない。すべての心の上に「わたしが自分の義務を知らないか、またはそれを行うことを怠る以外にわたしが恐れるものは何もない。」という言葉がダイヤモンドの筆先によって刻まれるかのように、刻み込まれるべきである。……

自制心、愛とやさしい言葉とは救い主に名誉を帰する。親切で愛に満ちていて平和を作り出す言葉を語る者は、豊かに報いられるであろう。……わたしたちはこのお方に学んだ柔和とへりくだりのうちに、この方の霊が輝き出るようにするべきである。(手紙 257、1903 年)

イエスは偉大なる教師である。……主はあなたをご自身との緊密な交わりに入れようと非常に望み、備えておられる。主は、幼児の確信と確証を持っていかに祈るかをあなたに教えようとしておられる。……あなたの名前を主の学校の生徒として、新しく登録しなさい。信仰をもって祈ることを学びなさい。イエスの知識を受けなさい。……

イエスの足許に座ってこのお方に学ぼうではないか。(手紙 38、1893 年)

4月7日

意志の真の力

「もし心から願ってそうするなら、持たないところによらず、持っているところによって、彼に受け入れられるのである。」(コリント第二 8:12)

純粋な宗教は意志と関係がある。意志は人間の性質の中にある支配する力であり、他のあらゆる能力をその支配の下に置く。意志とは、趣味や傾向ではなく、人の子が神に服従するかしないかを決定する力である。……

ついにはあなたを天国にふさわしい者とする生活をおくりたいとあなたは望んでいる。あなたは自分が道徳的に弱いことに気がつき、疑いの奴隷となって、古い罪の習慣に支配されていることに気づいて、しばしば失望する。……あなたの約束は砂の縄のようなものである。……

意志の本当の力を知らないかぎり、あなたは絶えず危険にさらされている。あなたはあらゆるものを信じ約束するかもしれない。しかし、あなたが自分の意志を信仰と行動の側に置かない限り、あなたの約束も信仰も価値がない。もしあなたが自分の意志の力のすべてをもって信仰の戦いをたたかうならば、勝利するであろう。あなたの気持ち、印象、感情は頼りにならないので信頼すべきではない。

しかしあなたは絶望する必要はない。……イエス・キリストの意志にあなたの意志をゆだねることは、あなたのためである。あなたがそうするなら、神はただちにそのよしとするところを行うためにあなたのうちに入り、働かれる。その時あなたの性質全体はキリストの御霊の支配のもとに入れられ、あなたの考えでさえこのお方に服従する。あなたは自分の衝動、感情を自分の思い通りに支配することはできないが、意志を支配することはできる。それによってあなたは自分の人生を全く変えることができる。キリストにあなたの意志をゆだねることによって、あなたの命はキリストと共に神のうちに隠され、もろもろの支配と権威の上にあるみ力と結合する。あなたは、そのみ力にあなたを強く結びつけておられる神から力を受ける。そして新しい光、生きた信仰の光でさえあなたのものになる。しかしあなたの意志は神の意志と協力しなければならない。……

「わたしの意志をイエスにささげます。わたしは今ささげます。」と言おうではないか。そしてこの瞬間から完全に主の側に立とうではないか。(教会への証 5 巻 513、514)

わたしの意志が安全な時

「しかし今や、あなたがたは罪から解放されて神に仕え、きよきに至る実を結んでいる。その終極は永遠のいのちである。」(ローマ 6:22)

神の御霊は悔い改めた人に新しい能力を創造するのではなく、その能力の用い方に決定的変化をもたらすのである。思いと心と魂が変えられる時、人は新しい良心を与えられるのではなく、その意志が新しくされた良心、眠っていたその感受性が聖霊の働きによって呼び覚まされた良心に服従するのである。(手紙 44、1899 年)

罪に自分をゆだねることにより、人は自分の意志をサタンの支配下におく。彼は誘惑者の力のもとに望みのない捕虜になる。神はサタンの力を打ち破り、人間の意志を解放するためにご自身の御子をこの世におつかわしになった。捕虜に自由を宣言し、その重荷を取り除き、抑圧された者に自由を与えるために神はみ子をつかわされた。この世界に天の宝をすべて注ぎだし、キリストのうちに全天をわたしたちに与えることによって、神は全人類の意志と愛情と思いと魂をあがなわれた。人が神のご支配の下に自分をおくとき、意志は正しいことを行うために強く強くなり、心は自我から清められてキリストのような愛にみたまされる。思いは愛の律法の権威に屈服し、あらゆる考えはキリストに対する服従という虜にされる。(原稿 21、1900 年)

意志が主の側におかれるとき、聖霊はその意志を神の意志と一つにしてください。

主は人を愛しておられる。このお方はそのひとり子をわたしたちのために死に渡されることにより、その愛の証拠をお与えになった。それは、ご自分の恵みを通して人をご自分に対する敵意から贖い出し、ご自分に忠誠をつくす者へと連れ戻すためであった。もし人が神と協力するならば、主は人の意志をご自分と結びつけ、そのみ霊によって活力を与えてくださる。……福音は心を新しくするために受け入れられねばならない。そして真理を受け入れるとは、思いと意志を、神の力の意志に服従させることを意味する。(手紙 44、1899 年)

人の意志は、神の意志と結合した時はじめて安全である。(手紙 22、1896 年)

4月9日

服従する意志

「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教えが神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」（ヨハネ 7:17）

神にその意志をゆだねた者はキリストの学校で訓練を受ける。彼らは服従の習慣をつけるために訓練され、神への奉仕をするために訓練を受ける。わたしたちは道徳的性質の欠けた被造物ではない。福音は理解力だけに話しかけるのではない。もしそうであるならばわたし達は知性にだけ関係のある数学の公式を扱う本の勉強に取り組むように、福音に取り組むであろう。……福音の目標は心である。福音はわたし達の道徳的性質に話しかけ、意志を占有する。福音は、神の知恵に逆らって立てられた想像と自ら高ぶるあらゆる障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させる。

魂の能力を低下させるのは強情な心である。救いの科学を学ぼうとする者は、すべてキリストの学校において従順な生徒にならなければならないが、それは魂の宮がいと高き方の住居となることができるとである。もしもわたしたちがキリストを学びたいと思うのなら、魂は自分が誇りとしている所有物をすべて空にしなければならない。それはキリストが魂にご自分のかたちを刻みつけることがおできになるためである。……

その時わたしたちは、自分たちのために払われたキリストの無限の犠牲について、魂を和らげ、へりくだらせ、神への感謝の念で満たすような見識を持つようになる。キリストをあかしし、わたしたちを贖ってくださった方に対する感謝と献身をあらわす好機を求める強い願いが聖霊によって生まれる。忠誠と愛がすべての奉仕にあらわされる。キリストのようになりたいという燃えるような願いが、魂を優しく保ち、感謝の気持ちがあふれるように、また天が見ている前で神のいくしみ深さとその愛とまたその思いやりに対する感謝をささげようと導くのである。そのような人には抑えがたい恵みがあり、日々真理に同意した落ち着きがあり、心は左右されることがない。

狭い門に入ろうと必死に努力することはどれほどはるかに安全なことであろう。人間が天のともし火を受けることができる唯一の場所は、神の祭壇である。（手紙 5、1898 年）

神の庭園を耕す

「あなたがたはこの世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。」(ローマ 12:2)

人間、すなわち墮落した人間は、「何が神のみ旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知」ることができるために、心を新たにされることによって、造りかえていただくことができる。どのようにこれがわかるのであろうか。聖霊が人の思いと精神と心と品性を占有することによってである。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1080)

疑わしい原則や常習行為というがらくたは一扫すべきである。主は思いが復元され、心が真理の宝によって満たされることをお望みになる。(原稿 24、1901 年)

真理はそれを受ける者を高める力がある。真理は思いと品性を聖化させる影響力を持っている。……道徳力と同じように知性を絶えず向上させることによってのみ、わたしたちは創造主のご目的に応えることができる。……

クリスチャンは世の人よりももっと知性と鋭い識別力を備えねばならない。神のみことばの研究は、絶えず思いを広げ知力を強くする。重要で重大な真理を把握し悟るために思いを続けて働かせることほど、品性を磨き高め、あらゆる能力に活力を与えるものはない。

平凡な物事のみを扱っていると人間の思いは成長を妨げられ、弱々しくなって、目に見えない神秘を把握するために、時間や感覚という水準の域を脱することができない。理解力はいつも接触している物事的水準へと近づくものである。……人はその一生の間、知的に靈的に成長をやめる必要はない。(原稿 59、1897 年)

わたしたちは神より与えられたタラントを養成しなければならない。そのタラントは神の賜物であり、完全な統一体を作るために、互いにその正しい関係の中で用いられるべきである。神はタラントと思いの力をお与えになり、人は品性をつくる。思いは主の庭園であり、人は主のみかたちにかたどって品性をつくるためにそれを熱心に耕さねばならない。(手紙 73、1899 年)

神との一致

「イエスは彼らに言われた、『わたしの食物というのは、わたしをつかわされたかたのみこころを行い、そのみわぎをなし遂げることである。』」(ヨハネ 4:34)

キリストは「自分のこころのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うため」に來たと宣言なさった(ヨハネ 6:38)。このお方の意志は人の魂を救うために活発な働きへとつぎ込まれた。このお方の人間の意志は神の意志によって養われていた。主のしもべが今日「わたしは個人的にどのような種類の意志をつちかっているだろうか。わたしは自分自身の願望を満足させ、利己主義と強情に自分自身を固めてきただろうか」と、自問することは良いことである。もし、わたしたちがそうしているなら、大いなる危機に直面していることになる。なぜならサタンは神の御霊の支配の下にいない意志をつねに支配するからである。わたしたちが自分の意志を神の意志と調和させる時、キリストの生涯に見られた清い服従がわたしたちの生活に見られる。……

パウロは「わたしはキリストと共に十字架につけられた」と宣言している(ガラテヤ 2:19)。意志を十字架につけることほど困難なことはない。キリストはわたしたちが受けるすべての点において試みを受けられたが、その意志はいつも神の側におかれていた。このお方は、ご自分の人性のうちにエデンにおいてアダムが所有していたのと同じ自由意志を持っておられた。このお方はアダムと同じように誘惑に負けることが可能であった。そしてアダムは神を信じ、みこころを行う者となることにより、キリストが試みに抵抗されたと同じように抵抗できるはずであった。キリストは、もしそうしようと思えば、石にパンになればと命ずることもおできになった。また、神殿の頂上から飛び降りることもおできになった。また、サタンの誘惑に屈服して世界の横領者であるサタンにひれ伏し、彼を礼拝することもおできになった。しかし、主はすべての点において、「……と書いてある」とのみ言葉をもって誘惑者に立ち向かわれた。主の意志は神の意志に完全に服従しており、神の意志はキリストの全生涯を通じて表わされた。……

み父の戒めに対するキリストの服従が、わたしたちの服従をはかる物さしでなければならぬ。キリストに従う者は、このお方にあって完全になりたいと望むならば、自分の意志を神の意志に明け渡し続けなければならない。真心をこめて神を求める者たちが、このお方がすべての悩める時のいと近き助けであることを見出すことができるようにと、豊かな備えがなされている。力強いお方のもとに助けが備えられている。わたしはあなたの助け主となろうとキリストは約束しておられる。(原稿 48、1899 年)

この思いをあなたがたの間でも 生かしなさい

「キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互いに生かしなさい。」(ピリピ 2:5)

キリストがわたしたちに与えて下さった祈り、すなわち「みこころが天に行われ
るとおり、地にも行われますように」という祈りが応えられなくてはならない。わ
たしたちが神にささげ、日々の生活の中で実行されるべきこの祈りは、なんとす
ばらしいものであろう。聖潔の科学、福音の説く倫理は、神のみ思いの完全さ、
すなわち神のご意志以外の標準を認めない。人が改心と悔い改めによって受け
るものは、キリストの品性と思いである。御子を通して神は、人間が達すること
のできる卓越をお示しになった。神は、キリストの恵みを通して、人がどのような
ものになれるかの生きたあかしとしてわたしたちを世の前に展開させておられる。
なぜ非常に多くの人が無限の愛を持っておられる方の御心をいためるのだろうか。
.....

神はすべての人が各自の個性を発揮させることをお許しになる。人の思いは他
人の思いに覆い隠されてはならない。かえって「キリスト・イエスにあっていただ
いているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互いに生かしなさい」との招きが与
えられている。各個人は、栄光の望みであるキリストが自分のうちに形作られて
いることを自分自身のために知って、各自の信仰と各自の経験を持って神のみ前
に立つべきである。わたしたちにとってだれかを模範としてまねることは一たとえ
その人が人間の判断でほとんど完全な品性の持ち主であったとしても一他の人に
完全という称号も、またそのかけらも与えることができない不完全な、欠点のある
人間に信頼を置くことになる。

わたしたちのパターンとして、すべてであり、すべてのもののうちにおられる方、
万人にぬきんでた方、その素晴らしさは比べる方ができない方が、わたしたち
にはおられる。聖なる教師はなんと仰せになるだろうか。「それだから、あなたが
たの天の父が完全であられるようにあなたがたも完全な者となきなさい」(マタイ
5:48)。キリストは不可能なことを要求してわたしたちをからかっておられるのだ
ろうか。否、決してそうではない。御父がご自分の領域において完全であられる
ように、わたしたちにも自分たちの領域において完全になるようにと強く勧めてく
ださるとは、何と名誉あることであろう。このお方の力を通してわたしたちはこれ
をなすことができる。なぜならこの方は「わたしは、天においても地においても、
いっさいの權威を授けられた」(マタイ 28:18)と宣言なさるからである。この無
限の力を要求できるのはあなたとわたしの特権である。(手紙 20、1902)

4月13日

思いが思いに及ぼす影響

「というのは、神がわたしたちに下さったのは、恐れ of 霊ではなく、力と愛と健全な思いとの霊なのである。」(テモテ第二 1:7 欽定訳)

思いが思いに及ぼす影響は、清められた思いが善に対して非常に強力であるように、神に反対する者の手の内にある悪にとっても、同じように強力なものである。サタンはこの力を天使の思いに悪を吹き込む働きで用いた。そして彼はその働きにおいて、宇宙の善を求めているように見せかけた。……天から追い落とされて後サタンは、この世に彼の王国を建設し、人類を神への忠誠からそらせようと疲れを知らずに働いている。彼は天において用いたのと同じ方法、すなわち思いが思いに及ぼす影響力を用いている。人間は他人の誘惑者となる。サタンの強力な、人を堕落させる心情が大切にされ、その心情は見事で、強要する力を持っている。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホット・コメント] 7 巻 973)

はっきりした霊的視力が、もみがらと麦を見分け、サタンの科学と真理のみ言葉の科学とを識別するために必要とされている。偉大な医師であられるキリストは、ご自分を受け入れるすべての者に健康と平安と品性の完全を与えて下さるために、この世に来られた。主の福音は、邪悪な働きの科学が大いなる恵みとして紹介されながら、あとになって大いなる呪いであることがわかるような外面的な方法や形式から成り立っているのではない。ピリピ書の 2 章に真の神に似ている事が述べられている。「キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互いに生かしなさい」(ピリピ 2:5)。……

精神を治療する科学を弁護することは、サタンが思いと心を占領するために入ってくる扉を開いている。サタンは他人に支配されるままにあきらめている思いも、また支配する思いも両方とも支配する。わたしたちの救い主また贖い主であるキリストの上に築き上げる真の科学をわたしたちが理解するように神が助けて下さることを願う。

キリストは、すべての医師のうちで最も偉大な医師である。このお方は肉体の医師であられるのと同じく魂の医師であられる。もし主がサタンの凶悪な力からわたしたちを贖うためにこの世に来られなかったならば、わたしたちは永遠の命を得る望みを持つことはできなかったであろう。……わたしたちは誤りの多い人間にわたしたちの思いを向けないようにしよう。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ 1:29) と言おう。(手紙 130、1901 年)

混乱した思い

「あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの霊力に従う人間の言い伝えに基づくものにすぎない。」(コロサイ 2:8)

サタンは、しばしば一人の人の思いが他の人の思いに及ぼすことのできる力の中に、悪のための強力な手段を見出す。この影響力は非常に魅力的なので、それによって形成されている人はしばしばその力に気がつかない。神はこの悪に対して警告を発することをわたしに命令された。それはご自分の僕たちが、サタンの欺瞞の力に陥ることがないためである。敵は非常に優秀な働き人なので、もし神の民が、神のみ霊に絶えず導かれていないなら罠にかけられ、捕えらるであろう。数千年にわたってサタンは、人の思いの特性を実験してきたので、十分にそれを知っている。この最終時代の巧妙な働きによって、彼は人間の思いを自分の思いと連結し、自分の思想を吹き込んでいる。サタンは非常に上手に惑わす方法で働いているので、彼の誘導を受け入れる者は、自分がサタンの意志によって導かれている存在であることに気づかない。この大いなる欺瞞者は男女の思いを混乱させて、サタンの声以外の声が何も聞こえないようにしようと企んでいる。(セレクトド・メッセージ 2 巻 352、353)

キリストの福音は、わたしたちの日常経験の中に入りこむべきである。思いは福音の聖なるご要求を理解できる状態でなければならない。思いは守られ、自制と服従の習慣をつけるように訓練されねばならない。……

生ける聖書の教えは、想像と神の知恵に逆らって自らを高めているあらゆる高ぶりを打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させる。サタンは魂を低い標準へ引きずりおろすために、魂を覆う大いなる力を持っている。心からキリストに学びたいと願う者は、このお方に王座を占めていただく場所があくように、魂からそのあらゆる高ぶる想像物を取り除いて空にしなければならない。(レビュー・アクト・ワールド 1888 年 12 月 18 日)

キリストとサタンの闘争はまだ終わっていない。サタンは自分の力と権力をうちたてることを絶えず求めている。もし人の心を混乱させることができれば、彼はそうする。サタンの欺瞞は多方面にわたっている。しかし主は、わたしたちがこのお方に熱心に求めるなら、わたしたちの助け主となられる。(同上)

4月15日

思いを夢中にさせる

「善人は良い心の倉から良い物を取り出し、悪人は悪い倉から悪い物を取り出す。心からあふれ出ることを、口が語るものである」(ルカ 6:45)

思いは善か悪かのいずれかが占めるようにできている。もし、思いの標準が低ければそれは一般的にいて、その精神が平凡なことのみを考えているためである。……人間は思いの働きを統制し、支配する力と自分の思想の流れに方向を与える力を持っている。しかしこれにはわたしたち自身の力でできる以上の大きな努力が必要である。わたしたちが正しい考えを持ち、瞑想のために適切な主題を持ちたいのであれば、わたしたちの思いを神の上に置きつづけなければならない。

自分の考えと想像を支配することが義務であることに、ほとんどの人が気がついていない。訓練を受けていない思いを、有益な主題に固定しておくことはむずかしい。しかし、もし考えが正しく用いられていなければ、その魂の中で宗教は栄えることができない。もし、思いが聖なる永遠のことがらによって満たされていなければ、つまらない表面的な考えを大事にするようになるであろう。知力も道徳力も共に訓練されなければならない。そうすれば知力も道徳力も訓練を通して力づけられ向上する。

この問題を正しく理解するために、わたしたちの心が生まれつき堕落していることと、わたしたちが自分自身では正しい道を歩み得ないことを覚えていなければならない。わたしたちが勝利できるのは神の恵みと、わたしたちの側でのもっとも熱心な努力とが結合する時のみである。

クリスチャンの信仰には、すべての者がいつもその思いに宿さねばならない主題がある。人知をはるかに越えたイエスの愛、墮落した人類のためのこのお方の苦しみ、わたしたちのための主の仲保の働き、主の高められた栄光—こうしたことは天使もうかがいたいと願っている神秘である。天の住民たちは、これらの主題の中に自分たちのもっとも深い思想を引きつけ、これに没頭するのに十分なものを見出している。この問題に非常に深く関係しているわたしたちは、この贖いの愛の不思議に天使よりも少ない関心しかあらわしていないのではないだろうか。

心と同じように知性も神に奉仕するためさざげられねばならない。神はわたしたちの持っているすべてのものを要求しておられる。(ビュ・アソ・ハルド 1881年1月4日)

思考力を訓練する

「それだから、心の腰に帯を締め、身を慎み、イエス・キリストの現れる時に与えられる恵みを、いささかも疑わずに待ち望んでいなさい。」(ペテロ第一 1:13)

イエスを喜ばせたいのであれば、多くの者が彼らの思考力と行動の傾向において断固とした変更を行う必要がある。(SDA パイプ・コメント [E・G・ホイト・コメント] 3 巻 1150)

思考力は訓練されねばならない。思いが正しい方向に、そしてよく整えられた計画の秩序に従って働くように、思いの帯を締めなさい。そのとき、すべての歩みは前進の方向に向き、努力も時間もぼんやりした考えや無秩序な計画のために失われることがなくなる。わたしたちは人生の目標や目的をよく考え、絶えず価値ある目的を視野に入れていなければならない。日ごとに思考力は訓練され、磁針が南北をさすように正しい方向に向いていなければならない。すべての人は、個人個人の目標と目的を持っていなければならない。それから、すべての思考力と行動を自分が意図するものを達成させる性格のものとしなければならない。思考力は統御されねばならない。あなたの着手することを達成するために確固とした目標が必要である。……

あなたの思考力を統御できるのはあなただけである。最高の標準に到達しようと努力するにあたって、成功か失敗かは、あなたの品性と、また思想を律する方法にかかっている。もし思想が、神が日々そうするようにとお命じになったように、充分に守られるならば、それはわたしたちがさらに大きな献身をささげる助けとなるような主題を思うのである。もし、思考力が正しければ、その結果として言葉も正しくなり、その行動も多くの魂に慰めと休息と喜びをもたらすような性質のものとなるであろう。……

思慮深い考慮をしないで行動する者は、愚かに行動する。彼らは発作的に行動し、ここかしこに出かけ、あれやこれをとらえるが結局何にもならない。彼らはぶどうのつるに似ている。そのつるは訓練されていなくて、つるが届く範囲のあらゆるくずにつかまろうといろいろな方向に努力するが、そのつるが役立つようになる前に、つかんだものから切り離され、自分を優美でよく整ったものにするものに巻きつくように訓練されなければならない。(手紙 33、1886 年)

4月17日

いかにして思いを訓練するか

「わが岩、わがあがないぬしなる主よ、どうか、わたしの口の言葉と、心の思いがあなたの前に喜ばれますように。」(詩篇 19:14)

もし口の言葉が、天国に受け入れられ、あなたの交際仲間の助けとなるようにと望むのなら、思想は純潔で、心の瞑想が清くなければならない。(ビュー・アソッド・ヘラド 1888 年 6 月 12 日)

もし、思い自身の悪い欲望に従うままにされるなら、生まれつきの利己的な思いは、高尚な動機もなく、神への栄光や人類の利益を考えずに行動するであろう。思想は悪くなり、どこまでもただ悪いばかりであろう。……神の御霊は思想と願望をキリストのみ旨への服従へと連れて行きつつ、魂に新しい命をつくり出す。……

青年は早くから正しい思考の習慣をつちかわねばならない。わたしたちは思いが健全な通路の中で考えるように訓練し、思いが悪い事柄を熟考することを許してはならない。……神がご自分の聖霊によって心に働きかけられるとき、人は神に協力しなければならない。……

わたしたちは、自分たちの永遠の救いに関する事柄を厳粛に、正直に考えつつ聖書を瞑想しなければならない。イエスの無限のあわれみと愛、わたしたちのために払われた犠牲はもともと真剣で厳粛な黙想を要求する。わたしたちは愛する贖い主、仲保者の品性を熟考しなければならない。救いの計画の意義を悟る努力をしなければならない。ご自分の民をその罪から救うために来られた方の使命について瞑想しなければならない。天の事柄を絶えず瞑想することによって、わたしたちの信仰と愛はますます力強く成長する。わたしたちの祈りは、ますます信仰と愛が増し加わるので、ますます神に受け入れられるものとなる。それらはもともと知的な、熱烈なものになる。また、ますますイエスを信じる絶えざる確信を持つようになる。そして、あなたは、キリストがいかに快く、また力強く自分によって神のもとに来るすべての者をきわみまで救ってくださるかについて、日々生きた経験をするようになる。……

わたしたちが崇拝するお方のように造られることを願う魂の飢え渇きがある。キリストについて考えれば考えるほど、このお方のことをますます他の人々に語り、世にこのお方を紹介するようになる。(同上)

人間の思いのしかるべき水準

「主のみまえにへりくだれ。そうすれば、主は、あなたがたを高くして下さるであろう。」(ヤコブ 4:10)

人間の思いのしかるべき水準とは何であろうか。それは、カルバリーの十字架である。信仰の創始者であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見るにより、自己に栄光を帰そうとするあらゆる望みは、ちりの中に捨てられる。わたしたちが正しく見るとき、心を低くし、へりくだらせる自己謙遜の精神が現れる。わたしたちが十字架を瞑想するとき、すべての信徒にもたらされたすばらしい備えを認めることができる。キリストのうちにおられる神を……正しく見るならば、人間の誇りと賞揚を打ち倒してしまうのである。そこには自己賞揚がなく、真の謙遜がある。(手紙 20、1897 年)

カルバリーの十字架から反映される光は、すべての誇り高い思いをへりくだらせる。心をつくして神を求め、自分たちのために備えられた大いなる救いを受け入れる者は、イエスに心の戸を開くのである。彼らは自らに栄光を帰することをやめる。彼らは自分たちの達成を誇らず、自らの能力を自分の手柄とせず、すべてのタラントを神の栄光のために用いるべき神の賜物とみなす。彼らはすべての知的能力をキリストの奉仕に用いる時にのみ、尊いと見なす。(ユース・インストラクター 1900 年 12 月 6 日)

人性をもって神性をおおわれたキリストの謙遜はわたしたちが熟考する価値のあるものである。もし、この主題について本来なすべきほどに注意を払って研究しているならば、「わたし」について耳にすることははるかに少なくなり、キリストについて語られることが多くなるであろう。人を豊かにするためにキリストからあふれ出る命の流れを妨げるものは、人間と神の間に存在する自尊心である。自己否定と十字架の道を、イエスに従ってあゆむとき、わたしたちは謙遜のために奮闘せずともよいことに気づくであろう。キリストの足跡に従ってあゆむとき、わたしたちは主の柔和と心のへりくだりを学ぶようになる。自分についてはほとんど考えるべきではない。なぜなら、わたしたちは、決して自分自身を大いなる者とすることはできないからである。わたしたちを大いなる者とするのは、キリストの優しさである。(手紙 100、1895 年)

忠実で謙遜な信じる神の民は、自分の心から自己という偶像を切り捨て、キリストがすべてのすべてとなるのである。(原稿 29、1900 年)

4月19日

思想の最も輝かしい主題

「どうか、わたしの思いが主に喜ばれるように。わたしは主によって喜ぶ。」(詩篇 104:34)

真理の宝石を他の人に伝えることができるために、あなたの思いをキリストの無尽蔵の富に、しっかりととめようではないか。神のみ言葉のうちには、わたしたちが一生をかけて研究しても、それらの尊い貯蔵庫を見始めたに過ぎないということを見出すほどの、真理の豊かな鉱山がある。縦坑を深く掘り下げて隠れた宝を掘り出さない。しかし、わたしたちが単に何もしないで落ち着かない気持ちでいたり、ただ感覚を喜ばせるもの、面白いと思う何か、愚かな笑いを誘うものにふけていたりする間は宝を掘り出すことは不可能である。……軽々しい読み物、興奮させる物語、娯楽を求める気持ちでいっぱい思いは、キリストについて熟考することなく、満ちみちたこの方の愛を喜ぶことができない。愚かな考えやつまらない会話に楽しみを見出す思いは、露や雨のないギルボアの丘のようにキリストの喜びを欠いている。

あなた自身の経験がこれを証しないのだろうか。すなわち、1日を終る時その日が軽々しく費やされ、軽くつまらない会話に費やされていたならば、あなたの思いにどれほど平安があるだろうか。「心安し、神によりて安し」と言いつつ、夜の休みにはいることができるだろうか。……あなたが神の家に入るとき、おごそかな集会に入る時、だれかが語った愚かな事、つまらない物語、あなたが見たり読んだりしたこっけいなことに、あなたの思いが何度向いたことであろうか。そしてキリストの栄光の輝かしい光を覆い隠そうと、その考えが入り込んでくる。そしてあなたは受けるべきであった、天から送られた光の恩恵を失ってしまう。……

わたしたちは、いつも自我と罪を思いから追い出して、キリストで思いを満たしている必要がある。……あなたが虚栄と軽薄を捨てて思いをすっかり空にするならば、その真空は神があなたに与えようと待っておられるもの—聖霊—によって満たされるであろう。その時、あなたは良い倉から良いもの、思想の豊かな宝石を取り出し、他の人々はその言葉が聞いてわかるであろう。……あなたの思想と愛情はキリストから離れず、あなたの上に輝く義の太陽を他の人々に反映するであろう。(ビュー・アソド・ハルド 1892 年 3 月 15 日)

瞑想の時間

「このような人は主のおきてをよろこび、昼も夜もおきてを思う」（詩篇 1:2）

夜の最後の思いと朝の最初の思いは、あなたの永遠の命の望みの中心であるキリストでなければならない。（手紙 19、1895）

瞑想と聖書研究と祈りに費やす時間を、あたかもその時間が失われたものであるかのように、多くの者が出し惜しんでいるように見える。わたしはこれらのものをみな、あなたが持つようにと神が望んでおられる光のうちに、あなたが見ることができるようにと願う。なぜならその時あなたは天国を第一に大切なものとするからである。……運動は食欲を増進し、肉体に力と健康を与える。同じように礼拝を行うことは、恵みと霊的力を増進する。

愛情は神を中心としなければならない。神の偉大さとあわれみと尊さを瞑想しなさい。神の慈しみと愛と完全な品性が、あなたの心を捕えるようにしなさい。このお方の神としての魅力と、忠実な者に神が備えられた天の住居について語りなさい。天について語る者は、周りにいるすべての人々にとって最も益になるクリスチャンである。その人の言葉は役に立ち、人に活力を与えるものである。その言葉は、聞く者の上に造り変える力をもたらす。（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 3 巻 1157）

神と個人的に絶えず交わる必要がある。もし、他の人に与えたいと望むならば、まず自分がキリストの精神を持たねばならない。わたしたちはすべての力の源である方と交わるために多くの時間を費やさない限り、サタンと人間の連合軍に立ち向かうことはできない。わたしたちは世の労苦の音と人の声から逃れて、イエスのみ声が聞こえるところに退かねばならない時がある。このようにしてわたしたちはキリストの愛を味わい、この方の霊を吸収する。わたしたちは自己を十字架につけることを学ぶ。人間の思いにとってこの行為の道は不可能に見えるかもしれない。「わたしは時間がない」とあなたは言うかもしれない。しかし、この問題をありのままに考えるならば、あなたは一刻も猶予できない。なぜなら神だけからくる力と恵みを獲得するとき、あなたがその働きを完成するのではない。真の働き人であるイエスがそれを完成してくださるのである。「わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」とキリストは言われる（ヨハネ 15:5）。……熟考と熱心な祈りは、聖なる努力に靈感を与える。（原稿 25 a、1891 年）

4月21日

信仰とは何か

「さて、信仰とは、望んでいる事柄を確信し、まだ見ていない事実を確認することである。」(ヘブル 11:1)

キリストを信じる信仰とは、自然の働きではなく、人間の思いに働きかける神の働きであり、キリストが御父をあらわされたようにキリストをあらわす聖霊によって魂そのもののうちになされる働きである。信仰とは望んでいる事柄を確信し、まだ見ていない事実を確認することである。その義とし、聖化する力によって信仰は人間が科学と呼ぶものよりもすぐれている。それは永遠の事実の科学である。人間の科学は、時々欺き、また間違っって導くが、この天の科学は決して間違っって導くことがない。それは非常に単純なので、子供でさえ理解できるが、最も教育を受けた人でもそれを説明することはできない。信仰は、あらゆる人間の表現を超えた、説明できない計り尽くせないものである。(原稿 44、1904 年)

キリストの贖いを受け入れることは、真の信仰の第一段階である。……自分の罪と自分が柔和で謙遜なイエスに似ていないのを見て、これをひどく嫌うために、聖なる鏡を十分長く覗き込む者は、勝利する力を得るであろう。真に信じる者はその罪を告白し、捨てるであろう。彼らは、キリストと協力してその先天的後天的な悪の傾向を、聖なる意志の支配のもとにおき、それによって罪が彼らを支配しないようにする。信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見る時、彼らは主のみ姿に変えられて行く。彼らはキリスト・イエスにあつて全き姿にまで成長する。……本当に悔い改め、罪を告白し捨てる者は、もっと成長し、もっとキリストのようになり、「あなたがたは、彼にあつて完全なのである」(コロサイ 2:10 欽定訳) と天において言われるようになる。(手紙 21、1901 年)

「求めよ、そうすれば、与えられるであろう」は約束である(マタイ 7:7)。わたしたちのなすべき分は、ゆるがない信仰をもって御言に頼り、神はご自分の約束にしたがって行われると信じることである。信仰をもって敵のやみを打ち破ろう。疑いが起ったとき、キリストのところへ行つてこのお方と交わることによって魂に勇気を受けよう。わたしたちのために買い取られた贖いは完全である。このお方の備えられたいけにえは豊かであつて、出し惜しみをなさらない。天は必要としている者に、つぎることのない助けを備えている。(手紙 42、1900 年)

神の恵みによって救われる

「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることもないためなのである。」(エペソ 2:8、9)

イエス・キリストを通してわたしたちに与えられている神聖な是認、神の恵みは、有限な罪を犯した人間の行う、どれほど価値がある働きだと思われるものをもっても交換できないほど尊いものである。人は自分自身の内には何も持っていない。最も高尚なタラントも、人間から始まったものではなく、創造主から授かったものであり、人は神から何も買うことはできない。金銀をもって神の好意を買うことはできない。世の富は、主の委託されたタラントだからである。だれでも慈悲深い企画に対する多額の献金が神の御前で自分を高めたり、自分のために天の好意を買取ったり、イエスがご自分を愛する者のために備えに行かれた住居の中に自分のために場所を確保したりできると考えないようにしよう。キリストの尊い血潮は完全に有効なものである。……

キリストが死よりよみがえられたことは、キリストの働きに対する御父の印であった。それは贖いの働きに御父が完全に満足なさったことの公の表現であった。神はイエスがわたしたちのためにお捧げになった犠牲をお受け入れになった。それは神が要求なさったすべて、完全に完璧なすべてであった。人間はだれも自分の働きによって、キリストの働きを補うことはできない。イエスが十字架上で「すべてが終わった」と叫ばれたとき、栄光と喜びに天はわきたち、悪の連合軍には当惑がおそった。勝利の叫びの後、世の贖い主は首をたれて死なれた。……しかし、この方はその死によって勝利者となり、ご自分を信じる者が一人も滅びないで永遠の命を得ることができるために、永遠の栄光の門を開かれた。

罪人の唯一の望みは、イエス・キリストに全くより頼むことである。……わたしたちが神に受け入れられるのは、神の愛する御子を通してのみ確実であり、良い働きは御子の罪をゆるす愛の働きの結果にすぎない。良い働きはわたしたちの名誉となるものではなく、わたしたちが良い働きによって、自分の魂の救いの中で幾分かでも主張することのできるものは、何一つ持っていない。救いは信じる者に対する神の無料の贈り物であり、ただキリストのゆえに与えられる賜物である。悩んでいる魂はキリストを信じる信仰を通して、平安を見出すことができる。……人間は自分の魂の救いのためによい働きを口実としてささげることができない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1895 年 1 月 29 日)

4月23日

感情は安全な導き手ではない

「しかし義人はその信仰によって生きる」(ハバクク 2:4)

多くの者は、自分が望むように感じるができないがために、長いあいだ暗闇と疑いの中で過ごす。感情は、信仰に何ら関係がない。愛によって働き、魂を清める信仰は衝動のたぐいではない。それは、神の約束に頼って進み、神は言われたことを、また成就することがおできになるということを堅く信じることである。わたしたちの魂は信じるように訓練を受け、神のみ言葉に頼ることを教えてもらうことができる。御言は「信仰による義人は生きる」と宣言し(ローマ 1:17)、感情によって生きるとは宣言していない。(ユース・インストラクター 1897年7月8日)

不信やイエスを信じる信仰の欠如のたぐいをすべて捨て去ろう。単純な子供のような信頼を持って、感情に頼らず信仰に頼る生活を始めよう。イエスの尊い約束を疑って、このお方のみ名を辱めてはならない。このお方はわたしたちが動かされることのない信仰を持って信じることを望んでおられる。

「わたしは信じる、わたしは信じる」と言い、服従を条件として与えられる約束をすべて要求するが、キリストの働きをしない部類の者がいる。神はそのような信仰によってあがめられることはない。それはにせ物である。もう一つの部類は、神の戒めをすべて守ろうと努力している。しかし彼らの大多数は自分たちのために与えられている御約束を主張する尊い特権に達しない。神の御約束は神の戒めを守り、神の御目に喜ばれることを行う者のためにある。

わたしは日ごとに信仰のよい戦いを戦わねばならないことがわかる。わたしは感情に頼らず、すべてに信仰を働かさねばならない。わたしはあなたも主がわたしの祈りを聞いてくださり、わたしに答え、またわたしを祝福してくださることを知っているかのように行動しなければならない。信仰は、楽しい感情の高揚ではなく、神をこのお方のみ言葉どおりに受けること、すなわち神が仰せになっているので、ご自分の約束を必ず果たされると信じることである。(手紙 49、1888年)

神に望みを持ち、神を信頼し、わたしたちが幸福に感じてなくてもその御約束に信頼しなさい。よい気持はあなたが神の子であるという証拠ではない。また悩まされ、困って当惑した感情が、あなたが神の子でないという証拠でもない。聖書に来て、神をそのみ言葉どおりに知的に受けなさい。境遇に従い、神があなたを神の子として受け入れて下さることを信じなさい。信じない者ではなく信じる者でありなさい。(手紙 52、1888年)

感情と信仰は別のものである

「わたしたちは、見えるものによらないで、信仰によって歩いているのである。」（コリント第二 5:7）

わたしたちが書かれた御言に従う時、信仰によって歩まねばならない。神が御子というすばらしい賜物のうちに、このお方のあわれみ深い愛の、これほどまでに素晴らしい確証を与えてくださった後、わたしたちがこのお方を信頼することに失敗するとき、神を辱めることになる。わたしたちはイエスを仰ぎ続け、信仰をもって祈りを絶えずささげ、このお方の力に堅くすがり続けていなければならない。もし、わたしたちが自分の信仰をもっと多くあらわすならば、わたしたちは自分が持っていることを知っている祝福をもっと喜び、大いなる喜びと力を日ごとに持つであろう。

感情と信仰は東が西から離れているようにまったく別のものである。信仰は感情に属してはいない。わたしたちは日毎に自身を神にささげ、自分の信仰と同じ程度に感情があるかどうかを知るために自分を探らないで、キリストがわかってくださり、犠牲を受け入れてくださることを信じなければならない。両親が自分の子供に良い贈り物を与えるよりも、信仰を持って御父に聖霊を求める者に、このお方は、もっと喜んでそれを下さるという確証を、わたしたちは持っていないのだろうか。神の御前にささげたすべての祈りが、決して約束を破らないお方からの応答を聞いたかのように、わたしたちは前進しなければならない。悲しみにおしつぶされても、心の中で神を賛美できるのはわたしたちの特権である。わたしたちがそうする時、霧と雲は巻き去られ、陰と暗黒から出て、神のご臨在の輝かしい陽光の中に入っていくことができる。

もし、わたしたちがもっと信仰を持ち、もっと多くの愛と大いなる忍耐と、わたしたちの天父をもっと完全に信頼するように自分の魂を教育するなら、人生の争闘の中を通過するにあたって、もっと平安と幸福を持っていることができるであろう。主は、わたしたちがイエスのみ腕から離れて、思い悩み、心配することをお喜びにならない。主はすべての恵みと約束の成就とあらゆる祝福の実現の唯一の源である。……もしイエスがおられなかったら、わたしたちの旅路は実に孤独なものになるだろう。「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない」（ヨハネ 14:18）とこのお方はわたしたちに言っておられる。主のみ言葉を心に抱き、そのみ約束を信じ、日ごとにそれをくり返し、夜ごとにそれを瞑想して幸福になろうではないか。（原稿 75、1893 年）

4月25日

働き、きよめる信仰

「このキリストが、わたしたちのためにご自身をささげられたのは、わたしたちをすべての不法からあがない出して、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するためにほかならない。」(テトス 2:14)

あなたがカルバリーを見るのは、義務を行わないまま、あなたの魂を静め、眠りへと鎮めるためではなく、イエスを信じる信仰、働き、利己心というヘドロから魂を清める信仰を造るためである。わたしたちが信仰によってイエスをつかむとき、わたしたちの働きは始まったばかりである。一人一人が、活発な戦いによって打ち勝たなければならない堕落した罪深い習慣を持っている。すべての魂は、信仰の戦いを戦うように要求される。キリストに従う者であれば、取り引きにずる賢い者であったり、冷酷であったり、同情を欠く者であるはずがない。彼はその言葉が粗野になるはずがない。彼は尊大な態度になったり、自尊心に満たされたりするはずはない。彼は鋭い言葉を発し、非難や譴責の言葉を口にするはずがない。

愛の働きは信仰の働きから溢れ出る。聖書の宗教は休みなく続く働きをもたらす。……わたしたちはよい働きに熱心でなければならない。よい働きを続けるように気をつけなさい。真の証人は「わたしはあなたの働きを知っている」と言われる。わたしたちの忙しい活動がそれ自体では救いを保証するわけではないが、一方では、わたしたちをキリストに結びつける信仰は魂を活動するように動かすことも、また事実である。(SDA パイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1111)

真のクリスチャンはよい働きに満ちており、多くの実をもたらす。クリスチャンは飢えた者に食べさせ、裸の人に着せ、病気の人を訪問し、苦しんでいる人に奉仕する。クリスチャンは自分のまわりにいる子供たち、敵の巧妙な誘惑によって滅びようとしている子供たちに心からの関心を持つ。お父さんまたお母さん方、もしあなたがたが自分の子供たちを敵の策略から守っているなら、そのような世話を受けていない子供たちの魂を救うために、あなた方の周りを見回しなさい。……わたしたちのまわりには、教会員一人一人が義務を負っている青年がたくさんいる。キリストが彼らのために亡くなられたからである。……彼らは神の御目に尊いので、神は彼らの永遠の幸福を望んでおられる。……キリストは魂の救いのために熱心な変わらない働きをするようにと、ご自分の代理者の側の自発的な協力と呼びかけておられる。(ビュー・アソッド・ヘラルド 1895 年 1 月 29 日)

よい働きの中に輝き出る宗教は、はっきりした確かな安全な光を放つ。(手紙 38、1890 年)

良い行いの位置づけ

「わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにとあらかじめ備えて下さったのである。」(エペソ 2:10)

自分の罪の負債を弁償するために、人の働きがわずかといえども何かの助けとなるというような限られた狭い見解を取ってはならない。これは決定的な欺きである。もし、あなたがそれを理解したいと思うならば……あなたはへりくだった心で、贖いを研究しなければならない。この事柄は非常にぼんやりとしか理解されていないので、神の息子であると主張している幾千幾万という人が悪魔の子である。なぜなら彼らは自分自身の行いに頼っているからである。神は常により行いを要求しておられ、律法もそれを要求しているが、人は自分の良い行いが価値のないものである罪の中に自分をおいたために、イエスの義だけが役に立つことができる。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1071)

しかし、良い行いは本当に価値がないのであろうか。罰を受けずに毎日罪を犯している罪人は、キリストを信じる信仰を通して誠実に働こうと努力している者と同じ好意をもって神に見ていただけるのであろうか。聖書は「わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにとあらかじめ備えて下さったのである」と答えている。主の分相応でない好意を通し、その聖なるご配慮によって、主は良い行いが報われるようにお定めになった。キリストの功績を通してのみわたしたちは受け入れられる。だから、わたしたちが行う憐れみの行為、愛の行いは、信仰の実であり、それはわたしたちの祝福となる。なぜなら人は自分の行いによって報いを受けるべきだからである。わたしたちの良い行いを神に受け入れられるものとするのは、キリストの功績の香であり、わたしたちが報いを受ける行為を行うことができるようにしてくれるのは、このお方の恵みである。わたしたちが行う働きそのものには何の価値もない。……わたしたちは神から感謝をされる価値はない。わたしたちは自分のなすべき義務を果たしているに過ぎず、わたしたち自身の罪深い性質の力によっては、その働きを実行することさえできない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1895 年 1 月 29 日)

キリストはわたしたちを最大限に救うことがおできになる。……人間が自分の救いに関してできるすべてのことは、ただ次の招きを受け入れることである。「いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい」(黙示録 22:17)。人の犯した罪で、カルバリーの効果が及ばないものはない。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1071)

4月27日

にせ者になってはならない

「よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。」(ヨハネ 14:12)

クリスチャンは、ほんとうにイエス・キリストの代表者でなければならない。彼らはうわべだけの代表者であってはならない。キリストの働きをせず、ただキリストのみ名を持っている者の行動によって、世に神についての概念を作り上げさせるのだろうか。信者であると公言しながら、心からの信者ではなく神の信頼に背き、敵の働きをしている者を世の人々が指さして、「ああ、これがクリスチャンだ。彼らはうそをつき人をだますから、彼らは信頼できない」と彼らに言わせていないだろうか。そのような人は、真に神を代表する者ではない。神は世が欺かれるままに放っておかれない。主は地上に特殊な民を持っておられ、彼らを兄弟と呼ぶことを恥とされない。なぜなら彼らはキリストの働きを行っているからである。彼らは、神を愛していることを表わす神の戒めを守っているからである。彼らは神のかたちを帯びている。彼らは世界に対して、天使にも人にも見せ物になっている。(ビュー・アソド・ヘラルド 1895 年 1 月 29 日)

勝利者に与えられる報い、天の栄光は、彼らが世にキリストのご品性をあらわすその度あいにも比例するであろう。「少ししかまかない者は、少ししか刈り取らないことになる(第2コリント 9:6)。永遠の収穫のために地に種をまくことは特権であることを神に感謝する。命の冠が輝くか曇っているか、多くの星できらめくか、わずかの宝石の光しかないかはわたしたち自身の行いの道によってきまる。日ごとにわたしたちは来たるべき時に備えて、良い基礎を積み重ねていくことができる。自己否定により、また伝道精神を働かせることにより、またわたしたちの生涯をありったけの良い働きでいっぱいすることにより、また品性においてキリストを代表しようと努めることにより、わたしたちは多くの魂を真理に勝ち取り、報いを受けることによって尊ばれるようになる。

光の中を歩み、あらゆる機会と特権を最大限に用い、わたしたちの主イエス・キリストの知識と恵みに成長することはわたしたちにかかっているのです、わたしたちはキリストの働きを行い、天にある宝を自分自身のために確保する。(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト] 6 巻 1105)

時々刻々あなたの持ち場を堅持する

「(また、約束をして下さったのは忠実な方であるから、) わたしたちの告白する望みを、動くことなくしっかりと持ち続け。」(ヘブル 10:23)

揺れ動くことなく、自分の信仰の告白をしっかりと持ち続けることは、神の子としてのわたしたちの特権である。時には誘惑の熟練した力がわたしたちの意志力を完全に押さえつけ、信仰を動かすことが、感覚や感情といったあらゆる証拠にことごとく反するように思えるが、しかし、わたしたちの意志は神の側に置いておかねばならない。イエス・キリストの内には永遠の力と能力があることを、わたしたちは信じなければならない。……わたしたちは神の内に勝ち誇って自分の場所を堅持し、神の力強さの内に強くあらねばならない。……

信じる者にはすべてのことが可能である。神があなたの内に働いておられるので、あなたは神の御心を行うために、安全に、顔を火打石のようにすることができ、神を完全に信頼することができる。……

あなたは日々、すべてにわたって自分を個人的に神にささげねばならない。あなたは全面的にまた永遠にこのお方のものになるという契約を、日ごとに新しくしなければならぬ。変わりやすい感情にたよらず、神の御約束という確かな土台の上にあなたの足をしっかりとおきなさい。「あなたがそのように仰せになったので、わたしはそのみ約束を信じます」。これは知的な信仰である。

キリストの原則に反する道をだれかが追い求めるのをあなたが見るとき、あなたの感情は煩わされるであろう。また、信仰の試練と試みがあなたに来るであろう。しかし、ただイエスを見つめて、これらのことが何一つあなたの心を頑なにし、暗黒と不信仰の原因となることを許さないようにと、わたしはあなたに懇願する。何ものにもあなたの信仰をくじく原因にならせてはならない。神のみ前にいるかのように生活しなさい。友と話すようにイエスと語りなさい。最も厳しい試練にあるとき、このお方はあなたを助ける準備ができておられる。あなたがもつとも危機をはらんだ困難の中にいるとき、このお方はあなたと共におられる。……

確信の気持ちを軽蔑してはならない。そのことのために神をほめたたえるべきである。しかし、あなたの気持ちが沈むとき、神が変わられたと考えてはならない。あなたは気持ちに頼らず、神の御言に頼っているのであるから、その時でもできる限りこのお方を讃美しなさい。あなたは気持ちに支配されず、信仰によって歩く契約をしたのである。気持ちは環境によって変わるものである。……

信仰によって神のみ前に歩み、このお方のみ約束を全く信頼しなさい。イエスは「見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいるのである」と言っておられる(マタイ 28:20)。(手紙 42、1890 年)

4月29日

今日のための力

「あなたの力はあなたの年と共に続くであろう」(申命記 33:25)

わたしは主の恵みの保証のゆえに神に感謝する。この保証は今、今日、主の民のものである。……この約束は予想される未来の困難が来る前に、あらかじめそれに備えて、未来の緊急事態のための力を今日わたしが持つということではない。わたしたちが信仰によって歩むなら、わたしたちの境遇が要求するや否やわたしたちのための力と備えを、わたしたちは期待することができる。わたしたちは見えるものではなく、信仰によって生きる。わたしたちに対する主のご計画は、わたしたちが必要とするそのものをご自分に求めよということである。明日の恵みは今日与えられない。人の必要は神の機会である。……神の恵みは浪費したり、間違つて用いたり、悪用したり、用いないでさびるままに放っておくために与えられることは決してない。……

あなたが神を愛し、畏れつつ日々の責任を負っている間、また従順な子供として思いを全く謙遜にして歩む間、あらゆる苦しい状況に立ち向かうために、神の力と知恵が与えられる。

わたしたちは神なくして現代の試みに立ち向かうことはできない。昔の殉教者の立場に置かれるまでは、殉教者の勇気と不屈の精神を持つ必要はない。……その日その日の緊急事態のために、恵みの供給を日々受けなければならない。このようにしてわたしたちは主イエス・キリストの恵みと知識に成長する。そしてもし迫害がきて、わたしたちが神の聖なる律法を守り、イエスの信仰のゆえに牢獄に閉じこめられなければならないならば、「あなたの力はあなたの年と共に続くであろう。」迫害が再び起こるなら、真の勇気をあらわすために、魂のあらゆるエネルギーを目覚めさせるための恵みが与えられる。……

わたしたちは、日毎にわたしたちの力の源であるお方の近くにいななければならない。そうすれば敵が洪水のようにおしよせてくるとき、主の御霊が敵に向かってわたしたちのために旗を高く掲げて下さる。力はわたしたちの年と釣合いがとれるという神の御約束は確かである。今日の必要のために与えられる力のうちのみ、未来のための確信を持つことができる。神のうちにある経験は日ごとに尊くなっていく。……未来のために不安を先取りしてはならない。わたしたちが困っているのは今日である。……主は必要な時はいつでもわたしたちの助け主、わたしたちの神、またわたしたちの力である。(原稿 22、1889 年)

勝利に勝利を重ねる

「なぜなら、すべて神から生まれた者は、世に勝つからである。そして、わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である」(ヨハネ第 15:4)

あなたの魂と神の間に雲がおとずれるとき、闇と不気味さがあなたのまわり一面に立ち込めるとき、敵がきて魂から神と真理に対するその誠実さを奪おうとするとき、誤りがもっともらしく魅力的に見えるとき、その時こそ神を信じる信仰を働かせ、祈るべき時である。……信仰を心に抱くならば魂は高く上り、不死の冠のために努力しているあらゆる魂の道に、敵が立ちはだかつて投げかける地獄の陰を通り抜けることができる。……

イエスは「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていないさい」(マルコ 14:38)と言われた。わたしたちは、不信仰の雲、人間の思いを誘惑に屈するように導こうと、サタンが考案することのできるあらゆる悪からなっている不信仰の雲を、彼が繰り出すかぎり、目を覚まして祈らねばならない。しかし、神と人の間に横たわるこの雲は、人間がその暗い梁に対して思いと心を開かないかぎり、その魂に浸透することはできない。神の御使いは悪人の誘惑という有毒なマラリヤから、自己と状況と環境を超越し、あらゆる霞と霧と雲を貫いてイエスを仰ぎつつ、信仰によって最も暗い誘惑を見破っている一人一人を守る。……

キリストと結びついているならば、あなたの求める力はすべて与えられる。キリストのうちにいるなら、あなたは雄々しく戦うことができる。あなたが主イエスのうちにいる子供のように信じ、信頼すればするほど、信じる能力は大きくなる。あなたは信仰によって立つ。あなたは信仰を働かせることによってのみ、自己に打ち勝つことができる。……自己は、サタンが欺き、征服しようと思う人々と常に出会い、彼らを巧みに扱う場所である。しかし、もしキリストの義があなたのうちにあらわれるならば、あなたは強くなる。自分自身をこえて十字架にかけられた救い主を見上げることにより、よみがえり昇天された主を、あなたのためにとりなしておられる仲保者として見つめることにより、キリストの力と能力をしっかりとつかむことによって、あなたは自己に打ち勝つことができる。(手紙 30, 1896 年)

信仰の勝利に比べることのできる勝利はない。あなたの捕らえている信仰を決して離してはならない。信仰は失望のただ中であって勝利し、勝利に勝利を重ねることができる。(手紙 111、1902 年)

ご存知ですか。しかし、このお方は彼らに、ご自分が彼らを探しておられること、つまりまだ彼らを心に掛けて、愛していることを知ってほしかったのです。

このとき、このお方のみ声には、なんというやさしさがあったことでしょう!このお方はあたかも「あなたはなぜ愛する者から隠れているのか。これまでのように、わたしに会いに出てきてくれたらよいのに」。

もはやだまっていられず、アダムはゆっくりと隠れていた場所から出てきて、「園の中であなたの歩まれる音を聞き、わたしは裸だったので、恐れて身を隠したのです」と答えました。

恐れる!彼がそんなことを言うとは、なんときみょうなことでしょう!彼は今まで一度も恐れたことがありませんでした。彼は恐れというものを知りませんでした。今、この壮大で高尚な存在、神の創造の最高傑作は、恐れているのです。そして、彼が自分の造り主を恐れているとは、なんと悲しい思想でしょう!

しかし、これこそ罪がしたことでした。罪は人が自分の最高の友に対してさえ、恐れるようにします。それは最も勇敢な人をおくびょう者にします。それは最も高尚な頭を、恥のうちにうなだれさせるのです。

神さまは何が起ったかを、もちろん、ご存知でした。なぜなら、このお方から隠せることは何もないからです。しかし、このお方はアダムにお尋ねになりました。「食べるなど、命じておいた木から、あなたは取って食べたのか」。

そうです、アダムはその木から取って食べました。エバも同じです。両方とも重大な不従順という罪を犯していました。彼らはこのお方が次に何をおっしゃるのだろう、彼らの刑罰はなんだろうと思いながら、悲しく神さまのみ前に立っていました。

神さまは彼らに警告しておられました、「それを取って食べると、きっと死ぬであろう」。そして、彼らはしばしば、これらのなじみのない言葉が何を意味するのかと不思議に思っていたのです。一度も死を見たことがなかったので、それがどのようなものか、彼らにはわかりませんでした。今、彼らは死ぬのでしょうか?今日が地上にいる彼らの最後の日となるのでしょうか?なんと悲しいことでしょう!彼らはここにほんの短い時間しかいません

でした。

その時、神が彼らに、その罪のゆえに何が起こらなければならないかをお告げになりました。このお方は、まさに彼らの不従順のこの瞬間から、どのように彼らが死に始めるのかを説明なさいました。そして、彼らは心のうちに、それが真実であることがわかりました。

ブロッコリーのじゃがいもガレット

■材料 (2 人分)

じゃがいも	2 個
ブロッコリー	4 房
片栗粉	大1
こんぶだし顆粒	小 1/2
豆乳チーズ※	ひとつかみ

■作り方

1. じゃがいもは千切りにします。ブロッコリーは茹でて、みじん切りにします。
2. じゃがいもに片栗粉、こんぶだし、チーズを入れて良く混ぜます。
3. フライパンにブロッコリーを入れます。
4. ブロッコリーの上からかぶせるように②のじゃがいもを入れて焼きます。
5. 両面焼けたら出来上がりです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート2 第9話

罪の代価(1)

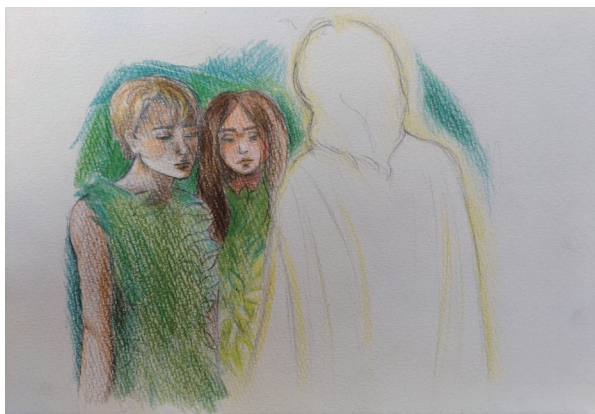
それは暗くなり始めるころでした。すでにすずしい風が木々のこずえをゆらしていました。まもなく夜になり、ふたたび星がまたたくのでした。

しかし、この美しい夕べに、エデンにはもはや幸せはありませんでした。うなだれた頭と痛む心をもってアダムとエバは悲しく森のこかげをさまよっていました。そこはついさきほどまで彼らが完全な喜びを知っていた場所だったのです。

突然、彼らはなじみ深い音を聞きました。それは神さまが「日の涼しい風の吹くころ」に神の歩まれるときのみ声でした。

今まで、彼らはこのすばらしいみ声を聞くと喜んでいました。とても愛している友にするように走って出迎えました。今、彼らはそこから走って逃げ去りました。「人とその妻とは主なる神の顔を避けて、園の木の間に身を隠した」。

そうすることは実におろかなことでした。彼らは神から隠れることはできませんでした。それはちょうど皆さんもわたしも、今日、神様から隠れることができないのとまったく同じです。



「主なる神は人に呼びかけて言われた、あなたはどこにいるのか」。

神さまはたずねる必要はありませんでした。このお方は彼らがどこにいるか

(66 ページに続く)